

聖徒の道

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回）日発行
第三卷 第五号 一九五九年五月一日



1959

5月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

ニ ュ ー ス

マーク・E・ピーターソン

長老夫妻の訪日計画発表さる

四月の三十日に、私たちは十二使徒評議員会々員のマーク・E・ピーターソン長老が五月中旬に二週間にわたって北部極東伝道部の視察旅行をされる旨を電報でソルトレーク市から知らされました。ピーターソン兄弟はエマ・マー・ピーターソン夫人同伴で五月九日(土曜日)ノース・ウエスト航空の第一便で羽田空港に到着の予定であります。

ピーターソン長老の訪問は日本、韓国および沖繩に在る当教会の確立と成長にとって最も重大な意味があります。長老は伝道部の各支部教会に属する忠実な会員たちに会うことができ、また日本、韓国および沖繩に在る教会にとって好都合に存在する数々の大きな好機会を直接観察することが出来ます。私たちは長老が帰国した時に、

教会が当伝道部に存在する数々の大きな好機会を直ちに利用する行動をとることを勧めるとマツケイ大管長に報告をされるように、当地に滞在中に長老ができるだけ多くの会員に逢い、できるだけ多くの好機会を見ていただきたいと思います。

北部極東伝道部に属する全会員と、出て来られるその他の方々は、五月九日羽田空港に迎え、ピーターソン兄弟姉妹が飛行機から降りられるときに盛んな歓迎をされるよう勧誘いたします。数百人の日本人聖徒が「感謝す言者」(讚美歌百一

番)を唱って歓迎するならば、ピーターソン兄弟姉妹は非常に感激されるでしょうし、また日本到着の最初から本伝道部の会員たちがどんなに忠実であるか、また数々の好機会がどんなに大きなものであるかを示すであります。

ピーターソン兄弟姉妹が当伝道部視察旅行をなさる予定表は次の通りであります。五月九日(土) 東京羽田空港に到着十日(日) 東 中央地方部大会(東京にて)、十一日(月) 伝道部長と会合 東京、横浜支部視察、



十二日(火) 関東地域の視察

十三日(水) 宣教師大会

十四日(木) 宣教師大会

十五日(金) 韓国へ出発(飛行機)

十六日(土) 韓国宣教師大会

十七日(日) 韓国地方部大会

十八日(月) 日本へ帰国

十九日(火) 西中央地方部大会

二十日(水) 北海道地方部大会

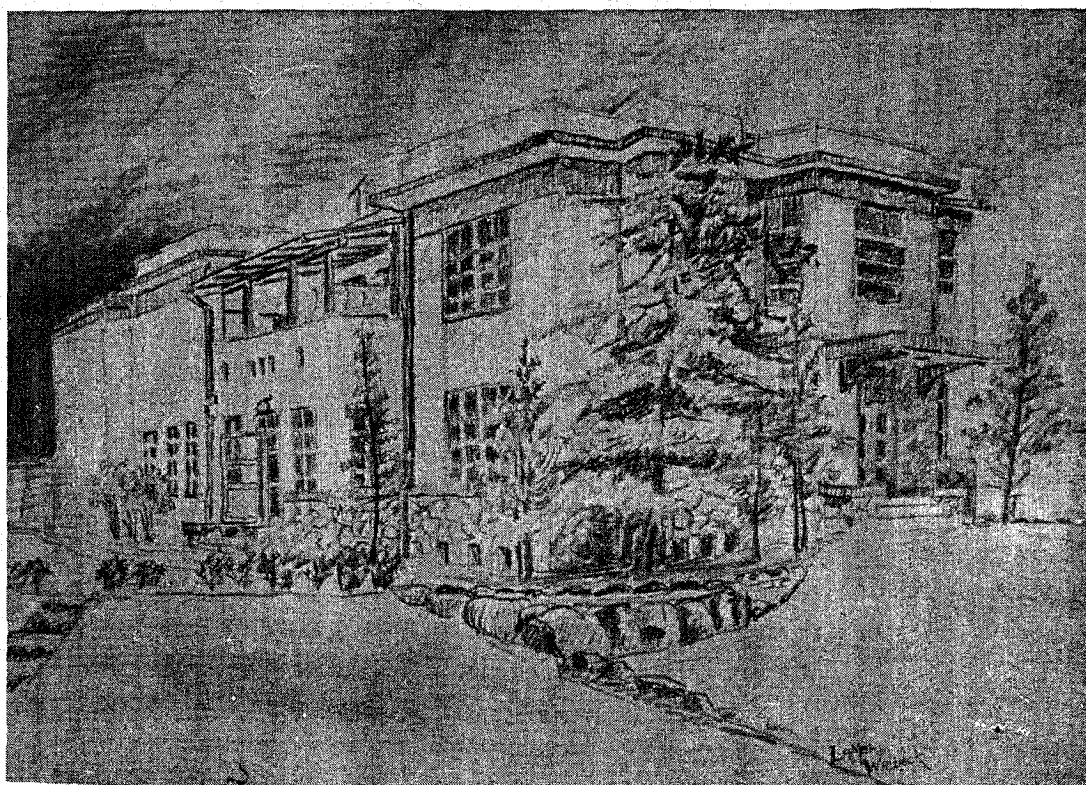
二十一日(木) 秋元姉妹ピヤノコンサート

二十二日(金) 沖繩行(飛行機)

二十三日(土) 沖繩宣教師大会

二十四日(日) 沖繩地方部大会、二十五日(月) 南部極東伝道部へ出発。

ピーターソン兄弟は十二使徒評議員会々員として多くの責任をもって居られますから、再び日本を訪問されることはないであります。会員は一人のこらずこの主の選びたもうた僕の話聞きその姿に親しく接する機会をのがしてはなりません。全会員が自分の属する地方部の大会へ親戚友人を誘って来るように勧誘します。各地方部に於ける大会の正確な時と場所とは各目の支部長から聞くことができます。



聖徒の道

【予言者のことば】	大管長デビド・O・マフケイ	2
わが教会のある理由		
「伝道部長メッセージ」		
教会の組織に召された人は	ポール・C・アンドラス	4
役職に上下なく働くよう		
心から求めよ	ジョセフ・フィルディング・スミス	8
系図のページ		
系図協会長からの寄簡	神座献堂式の祈禱	
北支那系図委員会	「ソルトレーク神座」(三)	24
私の改宗	案田徳一	10
私の改宗	秋元富佐	12
信仰と証詞		
神は人智で量り知る事の出来ぬ	丹羽三吾	14
誠命を垂れ給う	右井正道	15
斗病半歳の記録	渡部正雄	17
或る日のバプテスマ		
ニュース欄		
ワーカー長老才一(副伝道部長となる)	27	
隠れた隣人愛実践者	27	
群馬支部教会堂建設の機まき	28	
敢うシヤムウエイ家族	28	
新潟支部近況	28	
東中央地方部大会に出席して	29	
福音を恥とすな	ジョン・ロングデン	
私の母	デビド・O・マフケイ	28
お母さんありがとう・母の日		
「表紙の説明」ジョセフ・フィルディング・スミス		
モルモン経物語(十九)		
伝道本部より		
今月の主な出来事		
「詩藻」、詩、俳句		
「支部紹介」東京北支部		
支部所在地、編集言		



わが教会のある理由

大管長デビッド・O・マツケイ

末日聖徒イエス・キリスト教会の使命は、地球上に最後の神の王国を確立する道を備えることである。その目的はまず才一に人間の生活の中に神の特質を発揮させることであり、才二にこの世界が人間の住むために一層良いまた一層平和な場所となるように社会を変えることである。

神の持ちたもう目的の極致は次の言葉に言い表わされている。

「見よ、これが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」
(高価なる真珠、モーセの書一章三十九節)

この神聖な目的は、次にかかげる特殊な目標を完成する手段として教会を利用することによって達成することができよう。その目標を達成することは最も利発な心の人々にとって一つの挑戦である。

「才一」強い身体と盛んな活力と純潔な体

批評家たちが当教会の幹部は智慧の言葉を強調しすぎるとくり返し言うのを聞くときに、君はその批評家たちが智慧の言葉をまだ非常に深く研究していないことを知るであろう。根本的に言って、強い身体と盛んな活力とは人類が進歩するに当って欠くべからざる要素である。

(七頁につづく)

私の母 デビット・オ・マッケイ大管長

私は、私の母が有っていなかった婦徳を考えつくことができない。確かに、多くの青年はその母の愛と自己を忘れた献身とを深い愛を以て感謝するに当って、これと同じ讃美の詞を捧げることができる。しかし、私は冷静な判断を以て事実を公平に考えねばならぬ成人の域に達した時にこう言うのだ。私の母はその子供たちにとって、また私の母をよく知っていた人々にとって美しい上に威厳のある婦人であった。私の母は感激し易い性であったとは言え、平静な落ち着いた気分を有っていた。母のこいかつ色の眼は感情の高まりをすぐその中に表わしたが、母はいつもそれを完全に胸の中に収めて居た。

家政のくり廻しをする時に母は質素であったが、子供たちに幸福と教育とを与えるためには、父もそうであったように驚ろくほど物惜しみをしなかった。夫と子供たちにとって家庭を世界で一番楽しい所にするのが、いつも変らぬ母の目的であったが、母はそれを自然にまたこの上なく立派に為し遂げた。家族のために自分を忘れてすべてを捧げていたとは言え、母は小さな手助けをして母の愛に報いるよう上手に家族の一人一人に教えた。詩人の言葉を引いて言うと、母の心は「マツユキ草の純白の花びらにすっと引かれた緑のしま」のように純かった。そのやさしさと、注意深い世話と、情けのこもった忍耐と、家庭と正義とに対する忠誠とは子供の時の私にとってこの上もないものに思われたが、年月を経た今の私にとってもこの上もないものに思われる。

私の母はまだ若いたった54才の時に私たちを残して世を去った。

私は母に対する私の愛と母が本当に私を愛し私を信用していたという実感とが、私がまだ物に激し易い青年の中に私の名前も汚さず私の心が泥にまみれないように一度ならず守ってくれたことを。私が成年に達して間もない中に母に告げることができたらどんなによかったろうと、母に別れてからこの方たびたび思ったことである。美しい上にいつも心から愛し注意深くあった私の母から、また私が若いころ家庭で一しよに暮した忠実な私の姉妹から、またその後の分

別盛りになった年月の間に私の最愛の妻から、私は女らしさに就いての高い理想を理解した。これほど気高いまた愛に満ちた女の人たちから善い感化を受けた者はほかにない。私はこれらの人たちに永久に感謝をしなければならぬ。寝台の側で捧げた私の母の祈りと、私の私の兄弟とを夜具にくるんで一人一人に愛のこもったおやすみの接ふんをしてくれた時の、母の愛がこもった感触とは、数ある中でも私にとって忘れることのできない貴い心の宝である。当時私たちはあまりに幼い茶目たちであったから、このような祈りの意味が充分に解らなかつたが、母が私たちを愛していることが解らないほど幼くはなかつた。青年の中

に誘惑の断がいから一度ならず私の歩みをそらせてくれたのは、模範を与える父の教訓に対する忠誠と共に、母の愛に対するこの実感にほかならなかつた。

もしも私に、世界で最も必要なものを挙げてくれと言う人があるならば、私はすぐさま第一に「賢明な母」次に「模範を与える父」と言うであろう。もしも母の愛がその半分だけでも正しく向けられたならば、またも

し模範と名誉とにあらわれなければならぬ父たる資格が半分だけでもあらわれていたならば、世界にある悲しみと罪惡の多くが本当に征服されるであろう。家庭はわが国民生活の源である。もしもわれわれが源泉を純く保つならば、流れの汚れるのを防ぐに当って困難を感ずることが一層少いにちがいない。

わが母よ。

わが母の純き心と、信仰と、やさしさと注意深き保護と、この上なき忍耐と親しき交わりと、信頼と

正義に対する忠誠と父に対する援助と、善き感化と子供らに対する我を忘れた献身とすべてこれらの美わしき徳のため伸上。

わが母をめぐみたまえ。



教会の組織に召された人は 役職に上下なく働くよう



ポール・O・アンドラス

末 日聖徒イエス・キリスト教会は全く平会員によつて管理されているからほかに類のない教会であります。当教会には通常ほかの教会に見られるような「

牧師」は一人もありません。言葉を換えて言えば、当教会に於ける責任と権威のあるすべての地位は、特別に神学校で教育を受けたことのない、またその働きのために何ら金銭上の報酬を受けていない通常の会員たちが占めて居ります。誰でも教会に忠実な会員は、いつ何時でも何かの地位について働きをするために教会の中の上の人々から召しを受けることがあります。

そうであっても、私共の教会は人が神御自身から正

しい道筋を経て権能を受けるのでなければ、神を代表している主張する組織の中で誰も役員としての役目を正しく行うことは許されないということを強く説いています。人が日本政府の任命を受けずには日本政府の役人として働くことを許されないと同じ理由で、何人も神の政府の任命を受けずには神の政府の中で役員として働くことは許されません。私共は、末日聖徒イエス・キリスト教会はこの地球上に於ける神の政府であって、当教会の正しく任命された役員は神の政府の真実の代表者たちであると全世界に向って宣言するものであります。

この主張は、全能の神がその代表者たちを遣わして末日聖徒イエス・キリスト教会の創立者であるジョセフ・スミスに神を代表する権能を授けたもうた事実

基いています。千八百二十九年五月十五日、天にまします私共の父なる神に祈りを捧げている間に、ジョセフ・スミスとその同僚であるオリヴァ・カウドリは神の御前から遣わされた一人の使者の訪れを受けました。

この使者は「自分は今は復活しているバプテスマのヨハネ（新約聖書に記してあるバプテスマのヨハネと同一人）である」と名乗りました。この天からの使者は、それからアロン神権または小神権と言われている聖なる神権をジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授けました。それから数週間後に、天にまします私共の父なる神はその代表者を更に三人遣わしてジョセフ・スミスに大神権或いはメルケゼデク神権をお与えになりました。これらの代表者は「各々はペテロ、ヤコブおよびヨハネ（新約聖書に記してあるイエス・キリストの三人の使徒）である」と名乗りました。これらの天からの使者はジョセフ・スミスにこの地球上で神の教会と王国とを組織する完全な権能と、この地球上で神の教会と王国とがあらゆる活動をするときに、神の教会と王国との指揮をする完全な権能を与えました。この完全な権能は、ジョセフ・スミスから代々の大管長にそれぞれ伝えられ、今日はデビッド・O・マツケイ大管長が保有して居られます。今日当教会に於けるすべての役員は、神から授けられたこの完全な権能の下に正しい道筋を経て任命されて居ります。

先に述べましたように、神権には二つの大きな区分

すなわち大神権或いはメルケゼデク神権と、小神権或いはアロン神権とがあります。

当教会に属するすべての男の会員は、教会の中に在って忠実であるならば聖なる神権を授けられる権利を持つて居ります。或人が一度聖なる神権を受けたなら、その人がその神権を失ったりまたは取られたりすることがある唯一つの道は悪事を犯すことによつてだけあります。聖なる神権は神の全教会を支える柱であつて神の教会には絶対なくてはならぬものであります。予言者ジョセフ・スミスは「神の神権の在る所には神の王国がある、しかし神の神権のない所には神の王国はない」と言つた時にこの原則を明らかに述べました。この小神権も大神権も共に今日末日聖徒イエス・キリスト教会の中にあつて、この教会が神の唯一つの眞の教会であるという主張を証明する最も大きな証拠であります。

この教会に属する忠実な会員は、誰であつても、何時でも或る地位に就いて働きをするために召しを受けることがあります。しかし、その任期は教会の幹部方の場合を除き常に不定であります。教会の幹部の方々の任期は終身でありますが、当教会に於けるその他の役員はすべて教会の上の方々の判断によつていつ何時でも解任されます。或る人がある期間働きをしてから何らかの地位から解任されたとすると、その人は別の地位に任ぜられるまで平会員としての身分に再び戻り

ます。従って、すべて当教会の忠実な会員は、おそらく一生の中に教会に於けるいろいろの異った役目について働くことでありましょう。

こ

これに關聯して、或る人が比較的高い役から解任された後に比較的低い役について働くよう召されることとが度々起ることに目を留めるのは興味のあることであります。例えて言うに、或る支部長がどのような理由でも今、日曜学校管理会長として働いている人を解任すべきであると思うならば、その人を解任しても宜しい。そして、この日曜学校管理会長として働いていた人は、次の新しい管理会長から日曜学校のクラス教師に任命されるかも知れません。私自身の場合、私は今伝道部長でありますが、大管長会がどのような理由でも私を解任すべきであると思うならば私は解任をされます。すると、私はまた私のワード部へ戻って、そこで何にも特別の役目を持たない一会員となるでしょう。暫くして、私はMIAかまたは日曜学校でクラスを教えるように任命されるかも知れません。それが私共のすばらしい教会の中で組織が運営されている方法です。今日、ステーク部長、伝道部長、監督、支部長、ステーク部高等評議員、地方部管理委員会、ステーク部補助組織指導者および地方部補助組織指導者等として働いている人々は、来月、日曜学校教師、MIA教師、初等協会教師、音楽指揮者および図書係等として働いているか或いは全く何の地位にもついて

いないかも知れません。

これは私共の教会以外の多くの組織に見られる多くの弱点を取り除いているので、非常に良い制度であります。普通の組織では、役職に附いている権力または金銭を得たいという利己的な欲望があるばかりに、多くの人々は最も高い役を非常に欲しがっています。従って、これらの人々はこれらの高い役に就かれようとして陰險な計画をめぐらします。しかしながら、私共の教会では役職に附いている金銭はありません、従って任命が申請されないもので陰險な計画もめぐらされません。普通の組織に於いて、高い地位を有っている人が突然解任されると、誰でも皆その人が働きに失敗したか或いは何か悪い事をしたであろうと思ひますが、私共の教会では高い地位に就いている人々が、たとえこれまで良く働きた立派な働きをしていても、通例の手続きとして現在絶えず解任を受けて居ります。私共の教会で絶えず用いられている改組制度には多くの有利な点がありますが、最も大きな利益の一つは人々がその任命されたいいろいろの役の義務を遂行することにより、教会内の個人個人にもたらされる成長と発達であります。普通の教会では司祭または牧師がすべての祈禱を捧げ、すべての集りを司会し、すべての儀式を執り行い、葬式を執行し、病者に祝福を施し、すべての赤児を祝福し、またすべての説教をいたします。その結果として、普通の教会の会員はその教会の

会員であることから極めて僅かの個人的発達しか得て居りません。私共の教会では前に述べたすべての活動と更に多くの活動が会員によって遂行されますから、会員の一人一人は指導者たることに於いて、また性格の強さに於いて成長発達する機会にめぐまれて居ります。従って、どのような地位でもそこで働いて下さいと言われた会員は一人のこらず、たとえ自分に資格がないと思っても、どのような地位に対する召しでもそれを喜んで受け入れるのが賢明なことであります。

千九百五十一年ジョージ・アルバート・スミス大管長の死后大管長会が再組織された際に、私共の教会組織がどのように運営されるかのすばらしい模範が示されました。J・ルーベン・クラーク副管長は、それまで千九百三十四年以来十七年間大管長会に在って第一副管長の職に在りました。またデビッド・O・マツケイ副管長も千九百三十四年以来大管長会に在って第二副管長の職に在りました。しかしながら、マツケイ副管長はクラーク副管長よりも前に十二使徒定員会会員に按手聖任されていましたから、スミス大管長が亡くなると教会の大管長になりました。そして、マツケイ大管長はステイ・ヴン・L・リチャーズ副管長を自分の第一副管長として選び、クラーク副管長を第二副管長に下げました。第二副管長という新しい地位で始めて話をしたとき、クラーク副管長は「神の真の教会にあって大切なのは、働く地位が何であるかではなくて働ける方が如何であるかである」と述べました。この教会で働くように召されるあらゆる人々が、その職が何であらうと良く働きますように、というのが私の祈りであります。

(予言者のことば、二頁よりつづき)

「才二」 経済上の保証

われわれが「什分の一」に重点を置きすぎると人が言うのを聞くときに、君はその人が「什分の一」と断食献金とが教会に属するすべての男女と小児たちの経済上の保証に關係がある事実を悟っていないことを知るであらう。

「才三」 社会上の公平

どの定員会でもよいから入って行って、そこでどのような人々が集っているかを見たまえ。そこには君のよく知っている弁護士も医師も農夫も皆、社会的の高低なしに集っている。当教会に於いては、男も女も一人のこらず他のどの男女に対しても平等の特権を有っている。

「才四」 靈性を啓発すること

「みたま」の実を得んことを努めよ。その実とは愛と喜びと平和と親切と忍苦と柔和である。もしあるとすれば、今こそイエス・キリストの福音を實踐する時であり、また真のキリスト教の諸原則を實行するように努める時である。わが教会の会員の力となるものは、当教会が神の目的を完成する手段として設けられていること、わがイエス・キリストの教会は人類の悪を軽減する有効な組織として世界に並ぶものがないことを真に悟ることである。

さて今や初夏の候に於て、私は君が自分の属する支部の組織の中で絶えず活動的であつて、支部定員会や補助組織の活動に参加するように、また断食集会や聖餐会に於いても絶えず活動的であり、支部のグループに在つては自己の考えを言い表わし真理を追求するように願う。その方法によつて進歩と能率とが養われるにちがいない。外側に立つて「この定員会はその仕事をしていない」と言わないで、その定員会の中へ入つて行つてそれが仕事をするように手を貸したまえ。これこそ、この教会の中で神が人々に働きをさせようとして居りたもう方法であつて、それは君に世界最上の好機会を提供するのである。

心から求めよ

……特に不活潑会員のために……

ジョセフ・ファイルディング・スミス

今朝

我々は友人や事業家や教会外の著名な人たちに宛てた素晴らしい説教を聞いたが、私はそれは最も時を得たものであると思う。けれども私は私の話を教会の会員、特にその会員たる価値を自覚していない不活潑会員に致し度いと思う。私は皆さん一人々がバプテスマの水に入った時になした誓約を皆さんにお読みしたいと思う。

「また、神の誠命としてバプテスマの仕方に就きて教会員に下されたとくところ次の如し。およそ神の御前に自ら低くへりくだりてバプテスマを受けんと心に願ひ、真にへりくだる心と悔いる精神とを以て進み出で、真に自己の罪をすべて悔い改めたることを教会員の前に証明し、進んでイエス・キリストの御名をその身に引き受け、而して終

りまでキリストに仕えんと決心し、キリストの「みたま」によりて罪の赦しを受けたることをその行いによりて真に明らかにする者は、すべてみなバプテスマによりてキリストの教会に受け入るべし」。

(教義と聖約二十章三十七節)

さてバプテスマを受けて教会に入ることには充分に我々を救うことではない。それは罪の赦しであることは真実である。けれどもそこにはこれと同等に本質的な他のバプテスマがある。それは霊のバプテスマ又は聖霊の賜を受けることである。我々はバプテスマを受けた後、按手確認される。按手礼は何の為であろうか。我々をして聖霊の同伴者となさしめる為である。我々の心が啓発され、我々が神の王国の栄えに進む為のすべてに関する知識

と理解を求めるよう聖霊によって刺戟されるように神会の第三番目の会員の導きを受け同伴者たる特権を持たされる為である。同じ啓示の中で主は次のように言つて居られる。

「われらまたこの事を知る。すなわちわれらの主、救い主イエス・キリストの恵みによりて義とせらるる事は正しく真なり。また、われらは知る。すなわちわれらの主、救い主イエス・キリストの恩恵によりて聖くさるる事は、神を愛し、勢力をつくし、精神をつくし、力をつくして神に仕うるすべての人々にとりて正しく且つ真なり。されど、人は時として恩恵より墮落し、生ける神より離るることなしとせず。この故に、教会員は誘惑に陥らざる様用心して絶えず祈るべし。誠にすでに聖くせられたる者すらもまた用心すべし」。

(教義と聖約二十章三十節、三十四節)

バプテスマと按手礼は我々が神の王国の栄えに高められることを保証するものではない。それ等は我々が永遠の父の誠命の内に要求されるすべての誓約と義務に対し真実であり忠実であるように備えるものである。最後迄堪え忍ぶ者が救われるのであって、其処には誘惑が我々に立ち向う危険性があり、若し我々がこれ等の誘惑に降服するなら我々はすべてを失うのである。此の世に於て如何なる人にせよ、もたらされる最大なる罰は一度水によるバプテスマを受け、聖霊の賜を授けられる

按手札を受けてイエス・キリストの福音の光と真理を受け入れて後真理から遠ざかる者である。主はかかる人々を罪無しとされないのである。

私は

如何なる人と雖も光を知ってしまった。迄は滅亡の子となることは出来ないと言つても差支えないと思う。未だ曾て光を受けたことのない人は滅亡の子とならない。彼等は若し神に逆うなら罰せられるであらう。彼等は彼等の罪の価を支払わねばならないであらう。けれども只神権を通じ又神の能力を通じ又教会の会員たることによつて光を持っている人のみが神のみもとから永久に放逐され悪魔及び其の使たちと共に住まうべく暗黒の中に追出され得るのである。これは未だ曾て真理を知らなかった者にはもたらされない罰である。彼等はひどく苦しめられるかも知れない。又恐ろしく罰せられるかも知れない。けれども彼等は永遠の死に苦しめられ且つ神の能力の及ぶすべてから追放される仲間には入っていないのである。

次に私は神に奉仕しその誠命を守るべく与えられた特権と機会を感謝せず、無関心である場合には少しく道にそれる、人たちに向つて話をしたいと思う。若し彼等が此処に居ないなら私は彼等が今日此の建物内で行われていることを聞かれるように望む。彼等は大会に出て来ない、たとえ出席しているとしてもあまり多くないであらう。けれども光と知識と主のみたまの与える知らせを受けて後にそ

れて行くことは恐ろしいことである。

然し

ながら私の判断によれば、罪の赦しの手札を受け而も決してその賜、すなわちその顯れを受けたことのない多くの教会の会員が居ると思う、何故であらうか、何となれば彼等は自分自身をその顯れを受けるようにしないからである。彼等は決して自分自身をへりくだらしたことがないのである。彼等は決して聖霊と同伴者となる為の準備をしたことがないのである。故に彼等は、その生涯を通じて知識なく又理解しないのである。故に巧妙なずるい欺く者たちが彼等に來た時に彼等は若しその信仰が残っていたとしても動揺してしまうのである。彼等は教会の幹部たちを批判するのである。彼等は教会の教義を批判し、そしてこの弱い会員たちは充分な理解と知識を持たず彼等に來た羊の毛皮を着た狼の偽の教義及び教えを拒絶するところの主のみたまの導きを充分に持たないのである。そして彼等はこの狼たちに聞き、過を犯し、理解しなかつた為に教会外に彼等の道を見出してしまふのである。

私はしばしば末日聖徒イエス・キリスト教会の破壊に挺身している二つの機関によって本質的に動揺させられた教会の会員から手紙を受取る。これ等の人たち（破壊者）は弱い教会の会員の家に行つて彼等の信仰を動揺させ彼等をすべて濁らせてしまふので彼等はバプテスマを受けた時に果して正しいことをし

たのかどうかわからなくなってしまう。けれども若し彼等がそのあるべきように生活し、聖霊の導きを受けていたら彼等は動揺しなかつたであらう。彼等はこれ等の人々によって与えられた我々の教義に関する偽れる教え又は声明に作用されなかつたであらう。

福音

は単純である。それに就て何もむづかしいことはない。疑いもなく其処には奥義がある。けれども我々はその奥義に就て悩む必要はない。単に我々の理解出来る救いと高揚（榮えに進む）を含めばよいのである。

更に他の聖句を参照して見よう。

「されど、汝らに命ず、すべて何事も惜むことなく与えたもう仲に願うべし。また、『みたま』の汝らにしたもうところを汝らの為すはわれ正しく望むところなり。すなわち、汝ら全く聖きところを以てこれを為し、わが前に正しく歩み、汝らの救いの末に就きて考え、祈りと感謝とを以て何事も為し、かくして惡靈または惡魔の教えまたは人の造りたる戒めに陥らざる様になんことを。そはある教えは人より出で、また他の教えは惡靈より出ずればなり」。

（教義と聖約四十六章七節）

この故に主は我々に警告を与えた。「汝ら欺かれざる様いましむべし。また、汝ら欺かれざらんために熱心に最善の賜を求めよ。而して常に何の為に与えらるる賜なるかを憶ゆべし。われ誠に汝らに告ぐ。

極東におけるモルモン

私の改宗

築田 徳一



原因の、少なく共その一助となったことを否むことはできない。

原爆の投下されたことによって、家族を一人残らず失ってしまった私は、そのことによって、私の心の中に、失った家族達の冥福を祈る想が培われていくと共に、人間は何の為に生まれ、何を目的に努力をして、生き続けているのであろうか、という疑問がそれ迄よりも一層強く私の心の中に養われていくことを、何うすることもできなかった。この疑問が、私が末日聖徒イエス・キリスト教会の、二人の外人宣教師達の最初の言葉に耳を貸す

元来私の先祖は、私の知っている限り代々の仏教徒であって、私の家には先祖から伝わった仏壇が古色を帯びたままに、安置されていて、私が幼い頃には朝に夕に、祖母に連れられてその前に座り、仏像に向って礼拝をさせられたことを、今もよく覚えていいる。然し私が小学校に入学をする前の二ケ年の間は、近くにメソヂスト教会の幼稚園があったので、始めは母に連れられて、後には一人で毎日そこに通って、外人女宣教師のクック先生や、その他の先生達から、神様やキリストについて色々なお話を聞いたことは、今でも忘れられない楽しい思い出の一つになっている。その幼い頃の楽しかった印象が、私がモルモン教会の家庭集会を拒絶しなかった原因の、そ

それはこの賜はわれを愛してすべてわが誠命を守る者またかくなさんと求むる者のために与えらる。こはおよそ求むる者、またはわれに願う者また願えども己が欲望を充さんために徴を願わざる者たちのすべてを益するためには与えらるる故なり。われ、また誠に汝らに告ぐ、われは汝の教会員に与ふる神の賜の何なるかを汝ら常にここに留め、常に憶えんことを欲す」。

(教義と聖約四十六章八節―十節)

主は我々に賜を授けるであらう。主は我々の心を目覚めさせるであらう。若しも我々が只我々に約束されたことを理解せんとし、光と真理を求めるなら主は我々にすべての困難を解決する知識を与え、我々をして主が我々に与えた誠命及び決して根絶されない知識、我々の靈魂深く根付いた知識と調和させるに至るであらう。

イエス・キリストの御名により主が貴方を祝福し給わんことを祈る。アーメン。

(十二使徒会会長)

お願い

数年前に発行された神権会用テキスト「ナザレのイエス」の日本語版を所有している人がありましたら至急連絡して下さい。本部翻訳室で一時借用致したいのです。

の一つとなったことも否定することができない。

私は私自身の体験として、現在は小さい子供の親として、我が子を日曜学校に通わすことが、如何にその子の将来に大きな影響を与えるか、又先生達の愛の言葉や行いが、子供の心にどんなに強く、楽しい印象を刻みつけるものであるかを、はつきりと痛感しないではいられない。

私が小学校に入学した頃、近くの寺で仏教青年団の日曜学校が開かれたので、今度はそこへ通わされる身となった。その後私は中学校に入学した。その時から市の中央部にある、赤い煉瓦建の日本メソヂスト教会に通うことができた。そして十七才になった時、堀牧師からバプテスマを受けた。然し真の神の教えとして理解することは、ここでは何うしてもできなかった。それで私の心にはついに光がさす時はなかった。

やがて私は商店を開業した。そのうちに支那事変や大東亜戦争が始り、私は再度の召集を受けた。私が中支に居った時に、広島市が大爆撃を受けたという情報はいって、まもなく終戦を迎えた。

私は終戦の翌年になって、中支から帰還することができた。私はその時、泣くことさえも忘れて、爆心地に近い私の家の焼跡の上にとゞ一人あ然として立ちつくしている私に、やっと気づいた程であった。家も家族の生命も総てのものを一つ残さず、全部焼き尽して

しまった原爆、私の心の中は戦争に対する憤りと、平和を求める想とがいっぱいになって居った。

その時から私の平和を求める想が一層強くなって、私がこの教会の宣教師達の訪れを拒まなかった原因の一つになったことを、私はお話しすることが出来る。

一九五五年の夏の頃であった。二人の外人宣教師達が私の家を訪れた。そこで私は真の神の教えについて色々真理を教わることができた。その時の二人はウエラス長老とローパー長老とであった。その後でジェンスン長老、アステル長老、グリーン長老、グッドマン長老と永い間家庭集會を受けた。雨の日は傘をさしてレインコートを着て自転車に乗って来られた。その期間私は今考えて見ると、真に奇妙な質問をよくも続けて居ったものだと思う。

人は老年になるに従って、心が頑になるという話があるが、私も若い頃にメソヂスト教会でバプテスマを受けた時とは違って、納得ができるまではバプテスマを受ける決心がつかなかった。

約一年半の求道者の期間を経て、一九五七年二月十六日に、テリー長老より罪の赦しを受ける為のバプテスマを受け、その翌日に、グッドマン長老より会員の確認と、聖霊の賜を受ける按手礼をして頂いた。

本当に私の心が頑であった為に、沢山の長老達に永い間、私の家に通っていたといふこ

とを心から感謝する気持で私は今いっばいである。

私の心は今聖霊の導きによって、ハッキリと証詞することが出来る喜びに満ちている。末日聖徒イエス・キリスト教会こそ、世界中で唯一の真の神の教会であって、この教会の教えのみが真理であることを。

ジョセフ・スミスよりデビッド・オ・マツケイに至る迄の大管長が総て、神の本当の言者であることを。

モルモン教会はキリストと同じ神権によって管理されている、完全な教会であることを。モルモン教会の教えによる他は、真の神の救いは得られないことを。

総てイエス・キリストの御名を通して申しました。

アーメン。
(広島支部)

原稿募集

- | | |
|-----------|------------|
| 一、支部活動の報告 | (四百字詰三枚) |
| 一、証詞 | (四百字詰二枚) |
| 一、写真 | 真 支部諸集會其の他 |
| 一、文芸作品 | 詩、短歌、俳句 |
| 一、メ | 切 毎月、末日まで |
| 一、宛 | 先 伝道本部編集部 |

私の改宗

秋 元 富 佐

私にまでこの一文を認める機会が与えられ感謝と感激をもってペンを執りました。

一九五二年五月のうらかな日に、カウイ



姉妹とカ
ーナアナ姉
妹というハ
ワイからの
宣教師が私
の家の近所
を一軒毎に
戸別訪問を

しました。私の家では玄関を出ようとした主人に「キリスト教のお話を聞いて下さいませんか」と仰しやいました。主人は即座に「私の家は親の代からのキリスト教でお話はよく知っているから」と云って断りました。私はその時数日前に市場の近くの果物屋で会った方々と云う事を思い出しお遊びにいらして下さいと申しました。

次の土曜日の午後二人で遊びにお出になり、私が出したお紅茶を「私達の教会ではお茶を

飲みませんから」と召し上りませんでした。

それから二三回ウクレレを持ってお出になり私達はピアノと合奏したり歌ったりしました。が、福音については何も伺いませんでした。

或日私が用事で近所のUさんの家へ参りますと、カーナアナ姉妹ともう一人米国婦人たちが玄関を入ろうとする所で「今からここで家庭集会がありますから貴女もおききになりませんか」と仰しやいました。私はその時は非きき度いと云う気持ちになって「私もお願いします」と申しました。米国人はベギー・マース姉妹でカウイ姉妹がハワイへお帰えりになった代りの方だと紹介されました。そして救いの計画について流暢な日本語で教えて下さいました。私は何んとも云えない感激と喜びに胸が一杯になり次の家庭集会のお約束を致しました。

私は生れた時からキリスト教の家に育ち、母に抱かれて教会に出席し讃美歌を子守うたの様に聞きながら大きくなり、結婚後も教会をはなれた事はありませんでしたが、この様

な神様のすばらしい御計画については聞いた事がありませんでした。それからそのお家と私の家と交替で家庭集会が行われる様になり二回三回と重ねる中に、この教会には神様が生きて働いていらっしやると感ずる様になりました。途中から近所のUさんも加わり病氣療養中であつた御主人も加わつて四人になった事もありました。その間に宣教師も城田姉妹、岸上姉妹、柏姉妹とかわつて行きました。

寒い冬の雪曇りの日に京都で開かれた大会に初めて出席し、次々と前へ出て若い方々がしっかりと証をおのべになる顔の輝きや、その会の寮囲気に変感激した事を今も度々思い出します。家庭集会の時、私はいつも「神様の正しい教えが理解出来ます様に」とお祈り致しました。そして宣教師の言葉は宣教師の口を借りて神様が私に話していらっしやる様な感激を覚え目頭が熱くなり、聖書を読んで下さいと云われても咽喉がつまり閉会の讃美歌など歌えなくなる事が度々御座いました。私は御たまのお導びきを強く感じ、すべての教えを心から受け入れバプテスマを受け度いと思う様になりました。

そんな或日柏姉妹は私達三人にバプテスマをお受けになりませんかと仰しやいました。三人は喜んで御願いしますと申しました。手続きが終つていよいよとなった時急に二人の方は受けるのを中止すると仰しやつたので私だけが受ける事になりました。



ジョセフ・フ・フィールディング・スミス十二使徒会會長は稀れなる聖典に支持され、その後教会歴史記録者に支持された。ソルト・レーク・ステーク部の補助組織及び神権会内部に於ける活動に於ても積極的であり、一九二七年より一九三五年迄の間、デゼレト日曜学校中央管理会の会員であった。一九一〇年からスミス長老は十二使徒会の会員となつた。

通である。回復された教会で斯くも教会の教義に精通している者は少い。

ジョセフ・フィールディング・スミス

は一八七六年の七月十九日にソルト・レーク

市に於て、殉教したハ

紙の説明

十二使徒会會長

ジョセフ・フィールディング・スミス

の結婚では更に四人の娘たちと五人の息子たちに恵まれた。彼女は

イラム・スミスの息子で六代目の大管長であつたジョセフ・F・スミスとジュリナ・ラムプソン・スミスとの間に生れた。スミス長老は少年の時に農耕を学んだ。そして又、熱心な野球の選手でもあつた。後に彼のスポーツ活動はテニス並びにハンドボールにも及んだ。

彼は一八九九年から一九〇一年迄、英国伝道に従事した。それより戻ってから彼は教会の歴史事務所で働き始めた。五年後にスミス長老は教会歴史記録者補助

一九三七年に死去した。スミス長老は、それから、ジェシー・エヴァンスと結婚した。彼女が豊かな歌声は教会内のすべての音楽愛好家に親しまれ喜ばれている。彼は宗教問題に就て多くの書物を書き、又重要なパンフレットや雑誌記事を書いている。一九五一年にブリガム・ヤング大学に於て、スミス長老に栄えある文学博士の称号が授けられた。罪を容赦しない反面彼は暖かい思いやりのある人で、深く全人類の福祉に関心をよせている。

一九五四年三月二十一日にフランセス・バーナム長老によりバプテスマをさづけられ、同日の聖餐式でトーマス竹内長老から按手礼をうけ私は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となりました。その後私の廻りをおおつていた苦しい黒い雲は薄紙をはぐ様に一つ一つ取り除かれ、私の心は幸福に満ちました。と感謝に満ちた日々を送る様になりました。一緒にバプテスマを受ける筈であつた二人の方についてはいつもお氣の毒に思い時折教会にお誘いしておりますが一年に一度位しか出席なさいません。

私は神様から頂いた数々のお恵みの中で私此の教会に導びかれた事が最も大きなお恵みであるといつも感謝しております。

私はこの喜びを私の愛する人や廻りの苦しんでいる人に出るだけ知らせ度いと機会ある毎に教会のお話を致します。今迄に家庭集會を受ける様になった人が十五人、その中六人が会員となりました。まだまだ私の力の至らない事を悲しく思っております。

最後に私はこの教会が神様の眞の教会であり、私達を最大の幸福へと導びくものであると云う事を心から証し致します。

そして熱心に求める者には必ず神様は御たまのたすけによって眞実の教えをさとらせて下さる事を証し致します。

(岡町支部)

信

仰

と

証

詞

神は人智で量り知る

事の出来ぬ誠命を垂れ給う

丹 羽 三 吾

北支部の建設委員長と云う名前を頂戴して間もなく、確か三回目の委員会を開く予定の処、妻が風邪のため止むを得ず委員である田中榮子姉妹の御宅を拝借してダンスパーティーの打合会を済まし其の儘帰る早々寝込んでしまいました。三十九度以上の熱が続き医者も毎日往診して呉れて居りましたが其のうちにパーティーの当日も迫って責任上気が気ではありません。

ふと私は夢の中でウィーンの宮廷のホールにキラビヤカに着飾った紳士、淑女が集まって、今や舞踏会が最高調に達し、さすが広いホールも人々の群れで一ぱいになった。折も折、大塚兄弟が寂しげな顔をして私の方に近づいて来るのを見つけた。とたんに華やかだった舞台が一瞬にしてあの寒々とした北支部の四階ホールに変わって、二三の会員と今日のパーティーの入場者を待っているではありませんか、

私は祈りました。何卒我々の小さき願いを聞き届け得させ給えと。……

其の後私の為に福田真、正勝両兄弟に灌油の儀式をして戴き、病いもうすらいだ様に見えました。又福田真兄弟が見舞に来て下さった折、人様の前では苦しみなどを決して表わさぬ不死身を誇っていた私が、急激な胸の痛みに加えられる様な苦しみに襲われ文字通り七転八倒の苦しみでした。其の夜立会った二人の医師の様子から見て之で最後だと悟り、丹羽姉妹に教会に依る葬儀を依頼して総ては恩召の儘と決心はしたものの、肉体の苦しみが刻々と襲い来るし、妄念とイリュージョンが交錯して息苦しさを増すばかりでした。へり下りを知らぬタフを以って自認して居った私が、愚かなみじめさをつくづく感じさせて戴きました。

それから無我夢中で己の非を数え挙げ、

其の結果以下三つの結論を見出しました。
(1) 生存中未だ祖先のバプテスマをせざりし事、

(2) 一に関連して己の偏見から妻と真から和解し得ざりし事、

(3) 生死の境に在っても喜悦を見出し得る自分が隣人に対し伝道なし得ざりし事、

此の三つの事を心から神に対し御詫びの祈りを三四日昼夜の別なく祈り続けて居りました。

するとどうでしょう、身体中に悦びが溢れ、横臥さえ禁じられて天井ばかり見つめている身が苦痛さえうすらいでゆくのでした。吐く息も感謝、斯くして悦びの涙と共に祈る日が幾日か続きました。口にする物は水ばかりです。しかし只ひたすらに神に祈る事の出来得る悦び、祈れば聞き得らるる事のすばらしい神を知った喜び、パウロの苦しみ、先見者たちの殉教による苦しみ、身につまされておぼろげながら解って来ました。

此の心境及び御詫びを如何しても証し得ずには居られぬ衝動に馳られ、大塚支部長に来て戴きました。見証者の必ず必要な事、其の他の事、教義の事等総てがハッキリとして参りました。聖霊の導きのすばらしさを知って感激で胸一杯です。北支部の兄弟姉妹が、肉

身以上の愛情で私の様な者迄も珠玉の様にいたわり包んで下さったのでした。神が私に御与え下さった誠命、それは確しに、恐ろしいものでもあり又筆舌には言いつくせぬ物がありました。然し神は真実到大愛を垂れ給いて少しでも私に進歩を与えて下さいました。誠に誠に生き給う神は、我々を愛したもう事を声を大にして証詞致します。

人の知らぬ病名「自然氣胸」と言うのは私

斗病半歳の記録

特に此一文を札幌支部の藤田兄弟の勧めに依って書く。

昨年八月、保健所の定期レントゲン診査に依って左肺門部に発見された異状は、私自身に取っては全然自覚症状の無い事であり、始めは氣にも掛けずにいたものの、地元の病院の診断に依って、札幌の北大病院へ添書と共に紹介された時は、さすがに自己の病症が容易でない事が自覚された。そして昨年十月末北大病院第一外科へ入院、十一月十三日手術を受け、十二月四日、再度の手術を受けたが、病名は「縦隔洞シユ」と言う事であった。初回の開胸手術は四時間余の時間を要したものであるが、全身麻酔を受けた私には勿論全然

の様な年令の者はとうてい助からぬ病らしいのです。それが旬日を出でず大会にも出席して伝道部長始め皆様に御礼を申し上げ得る悦びが訪れて参りました。尚地方部評議員の渡部兄弟の心からなる御見舞を感謝し、併せて大塚支部長、北支部の方々に感謝すると共に総てイエス・キリストの御名により申し上げます……。

アーメン。

(東京北支部)

石井正道

手術中の記憶は無い。意識を回復した時は、問題のはれ物と左肺上葉を切除された身体をベットに横たえて居った。病氣の肉体的、精神的苦痛はそれからである。絶間無い血たんに悩まされた挙句かつ血し、呼吸困難と手足のけいれんを來たした時は、もうこれまでと思つた時も二三回あった。その時始めて私は真剣に死の問題に對決した訳である。

私の斯うして強制された経験に依れば、生理的な死其物は案外に恐怖をもたらさず、ただ死を予感せねばならぬ人間の個人的生活環境だけが死の恐怖の強弱を支配するものである。一体に私は所謂「命根性の汚ない」人間は嫌いである。此期に及んで、デタバタし



石井兄弟を見舞う札幌支部会員

度くは無いし、そうした死方を見苦しいと思う。自分はそうした死方をし度くは無い。然し今私は死んでも良いかとなると明らかに今死んではならぬ身体である。今自分が死ねば、老母と私の子供三人は路頭に迷うではないか、もう四五年、生き延び度い、四五年たてば末の子供でさえ中学を卒業する、その時現在のような病床に自分が在ったとしても、精神の平安は今よりズット優れたものに違い無い。斯う考え來たつた時、私は専心神に自己の病の平癒を祈った。

これを「苦しい時の神頼み」というのであ

今月の主な出来事

1日 1839年、後にノーヴーと呼ばれるよう
になった町を最初に購入した日はこの日である。

4日 1833年、カートランド神殿の建設委員
会が任命されている。

10日 1869年、大平洋横断鉄道がユタにて西
と東と連結された。

14日 1945年、ヒーバー・J・グラント大管
長が、88才で亡くなられた。彼は日本伝道
部の開設者であつた。

15日 1829年、
バプテスマの
ヨハネよりジ
ヨセフ・スミ
スとオリヴァ
ー・カウドリ
の兩人はアロ
ン神権を与え
られ、お互に
バプテスマを
この日ほどこ



(人力車に乗るグラント長老)

した。神権回
復の日として、末日聖徒にとっては真に意義
の深い、けっして忘れてならぬ日である。

17日 1884年、ユタ州でセント・ジョージ神
殿に次いで第二の神殿として、ローガン神殿
が献堂された。

26日 1848年、ウインタークォータースより第
二陣が西に向つて出発した。一行は1229
人の多人数であつた。

ろうか、否、宗教本能こそは人間の魂の奥底
に巣をくうものである。我々は神に祈るべき
であり、そうするのが創られたものの本然の
姿である。

祈りは神によって果してきかれるか。其保
証は何処にあるか。証し人は沢山ある。ジョ
セフ・スミスがそうである。スイスのカール
ヒルティ、日本の中山美伎子がそうである。
之等の人々は決して人を欺く人柄ではない。
然も口を揃えて「聖意に適った祈りは必ず神
によってきかれる」事を証している。私は之

等の人々の証しに力を得て祈った。そして現
在絶望的な病状より立直る事が出来た。

私が神の計り知れない御心によって完全に
病より救われるのは未だ未だ数ヶ月の先かも
知れない。其時私は、確かに救われるだけの
価値無くして、しかも救いに与った者となる
であろう。「精神力に依つて病気に打ち勝つ
た」と言う人がある。しかしそれは真理では
ない。病気は人間の精神力だけで克服出来る
ものではない。若しそうであれば人間は無限
に生きるであろう。我々は自分の意志を神に

委ねて、始めて生死を超越し、或時は神癒に
すらあずかる事が出来るものと思う。生死の
鍵は神が握り給う。

「神の意志無しには雀の一羽すらおつる事
なし」という聖書の中の言葉は此意である。
すべての栄光を神に帰せしめ給え。

アーメン。

(室蘭支部)

或る日のバプテスマ

渡 部 正 雄

霊峰富士が遙かにかすみ大平洋のさざ波が足もとにささやく松の緑の岡に、幾人かの聖徒たちが天から降り立ったような白衣の姉妹と兄弟をかこんで集った。

「心に今日、日あり 主いますゆえ」

讃美歌の音が静かに流れ渡った。木かげの小鳥がこれに和してさえずった。平和の鳩が青空に舞上った。夕日は今や大洋の彼方に没せんとし万物は寂として金色の輝きを放っている。一兄弟が口を開いた。

「貴方は今貴方の信仰によって神の王国に入らんとして居ります。貴方は今日神の僕として生れ変わるものです。おめでとうございます。聖句に『勝を得る者は斯くのごとく白き衣を着せられん』とありますが、あの富士山を見て下さい。貴方と同じように白い衣に輝いて永遠に立っているのです。最後迄耐え忍ぶ者は遂に救われるべし。貴方は今後如何なる困難に逢おうとも常に今日の日を憶い起し、あの富士と同じように貴方の身に霊に永遠に

白い衣をまとうている事を忘れずによき僕として神の王国の建設に励んで下さい。『また見しに、視よ白き馬あり、之に乗る者弓を持ち、かつ冠むりを与えられ、勝ちて復勝たんとて出でゆけり』

富士山の彼方に白馬嶽がそびえているでしょう」

姉妹の口もとから静かな然も力のある声が響いた。

「私は神が生き給い主が生き給うことを知りました。神を求めながらも素直に神を知ることの出来なかった自分が如何にどうまんであつたかを心から悔い改めました。私の胸は只喜びと感激で一ぱいです。これから皆さんと共に一生懸命に励みたいと思つて居ります」。

二つの白衣は静かに波の中に入つて行つた。兄弟は眼を閉じて手を挙げた。一瞬万物は神と共にこの二人を見守つた。姉妹の頬に宝石のような涙が光った。

「下の方で閉会しますか」

正服に着かえた姉妹が岡の上から馳下りようとした瞬間、あつと言う間に石につまづいて倒れた。一兄弟があわてて馳登り援け起した。

「靴下が破れただけで体に傷はありませんでした」

「これから貴方の道はこのようにけわしいでしょう。けれども貴方がその身と霊に今日の白い衣をまとうている限りこのように守られるでしょう」

「主は生けりと知る」

讃美歌は流れた。夕日は既に沈んで白いさざ波が聖徒たちの足下を静かに洗った。

(横浜支部)



テアンクム軍はバウンテフル市に近付いた時、他のニーファイ人の將軍リーハイとその軍隊に逢いました。彼等は連合してレーマン軍に向いましたのでレーマン軍は後を向いて彼等の町が既に占領されているのも知らずに走って逃げて行きました。彼等は又モロナイ軍が後方より彼等を追跡している事も知りませんでした。

リーハイとテアンクムは最初逃走するレーマン軍を捕えようとはしませんでした。彼等はレーマン軍かモロナイ軍に遭遇する迄待ちそれから攻撃しました。レーマン軍は両方のニーファイ軍の間に陥っているのに気づきました。この戦闘に於て、モロナイは負傷しレーマン軍の司令官は殺されました。リーハイとテアンクムは両方より猛烈に攻撃し敵の多くが武器を放棄して戦いを止めました。残余の者は何処へ行ったかわからなくなりました。

そこでモロナイはレーマン軍に彼等が完全に武装を放棄するならば戦闘を中止する旨告げました。或者は之に応じ又他の者はこれを拒みました。拒んだ者達は捕えられて強制的に武器を取上げられま

した。全レーマン軍は捕虜となりました。彼等はバウンテフル市に凱旋し、モロナイは捕虜を使って市の周辺に溝を掘り、その外側に城壁をめぐらせました。市の最も近くの溝の側に、彼等は高い板塀を立てて、バウンテフル市を全国一の防備都市にしました。

多くの捕虜が双方に捕えられていました、レーマン人はニーファイ人より只男子だけでなく女、子供迄捕えました。けれどもニーファイ人は単に戦闘員だけを捕えました。

或日レーマン人の王は、捕虜の交換を申出でました。モロナイは大変喜んで女、子供に至る迄出来るだけ多くのニーファイ人を取戻そうと決心しました。

彼はレーマン人の王に手紙を書いて一つの条件の下に交換しようと告げました。それは一人のレーマン人の捕虜返還に対しニーファイ人の兵士とその妻子を返すように要求したものでありました。

レーマン人の王は多くの捕虜を養うのに困っていましたのでこれを聞いて大変喜びました。けれども彼はモロナイに返事をする時ニーファイ人に就て欺いたのでモロ



(レーマン人と戦う2000人のヒラマンの息子たち)

ナイは怒ってレーマン人と捕虜を交換する事を拒みました。

モロナイはレーマン人の捕虜を戻さずにニーフアイ人の捕虜を救出す方法を考えました。彼は彼の部下の内で信頼出来るレーマン人の血統を持つ者を調べアマリカヤによって殺されたレーマン王の一人の僕を見出しました。

彼及び他の僕達は彼等の王が殺された時ニーフアイ人に保護を求めたのでありました。この僕の名はレーマンと言いました。モロナイは彼及びその他少数の者を呼んで捕虜を救う彼の計画を告げました。彼は彼等に酒瓶を与え、夜中に乗じて捕虜を収容しているギド市の番兵の処に行き番兵共を酔わすように告げました。

酒を持ってレーマンと彼の援助者は町に行きました。彼等は番人に逢った時、レーマンは、自分達はレーマン人で番人達に御馳走する為に酒を持って来たと言いました。番人共は酒をもらって喜び直ちに飲むとしました。レーマンは戦闘に出陣する迄、飲むのを待てと言いましたがそれは却って彼等に飲まれたがらせました。そこでレーマンは酒を彼等に与え、彼等

はぐっすり寝込んでしまう迄飲み尽くしてしまいました。

レーマンは急いでモロナイの処に帰り起った事を告げました。そこでモロナイはギド市に兵を派遣しました。彼等はつるぎやその他の武器を以てニーフアイ人の捕虜全部を武装させ朝迄町の中で静かに待つように言いました。そしてモロナイはその兵士を以て市外を取囲みました。

朝になってレーマン人が目をさました時彼等の町がニーフアイ人によって包囲されているのに気づき更にすべての捕虜が武装して戦闘準備をしているのを見て驚きました。彼等は武器を放棄して降服しました。ニーフアイの捕虜達はモロナイ軍に合流し、彼等は一層強力なものとなりました。

才六十章

ヒラマンの息子

(アルマ書五十三章、五十六章、五十七)

アンモンの民はレーマン人でありました。アンモン及びその兄弟達が彼等に福音を説き彼等は教会の忠実な会員となったのでありました。キリストに帰依した責務と

して彼等は二度と戦わない事を約束しました。彼等はその武器を埋めて彼等の家を去りセラヘムラに來てニーフアイ人と一緒にになったのでありました。

ニーフアイ人とレーマン人との激しい戦闘で多くの忠実な人々が殺され又捕虜となりその結果ニーフアイ人の軍隊は非常に弱くなりました。

アンモンの民はこの事を知って居りました。彼等は又多くのニーフアイ人が彼等を守っている間に殺された事をも知っていました。アンモンの民は彼等にかくも親切であつたニーフアイ人達が大変苦しめられているのを見て約束を破ってニーフアイ人を助ける為に決議をしました。

アルマの息子、予言者ヒラマンはこの事は賢明なやり方でないと感じました。彼は彼等にそのなした約束を守って決して再び戦うべきでないと告げました。彼等は彼の忠告に従って誓った者は二度と戦争に参加しませんでした。けれども彼等は何とかして助けたいと望みました。

彼等がニーフアイ人の間に住んでいる間に多くの息子達が生れま

した。此の息子達は戦争に対して何の誓いも立てませんでした。彼等は彼等の家を自由に守り又困難に陥ったニーフアイ軍を助ける事も出来ました。

若者たちは集会を開きました。彼等はレーマン人の両親から生れたけれども既にニーフアイ人によってキリストに改宗し彼等と一体となつて居りました。

彼等は又お互いにニーフアイ人の自由の為に戦い彼等自身の家を守る誓いを立てました。彼等は決して彼等の自由を失わずニーフアイ人及び彼等自身をレーマン人の束縛から守る為戦うであらうと云うおごそかな誓いを立てました。これらの若人達は二千人居りました。戦うことを決議してから彼等は武装してニーフアイ軍に加入しました。

けれども彼等は予言者ヒラマンに彼等の指導者となるように頼みました。

ヒラマンは喜んで之を受入れ彼等を彼の息子達と呼びました。彼等は勇敢な若者達で戦うことも又死ぬ事をも恐れませんでした。

けれども何よりも大切な事は彼等は心から主なる神さまを信じ彼等

に与えられた如何なる任務をも完遂するであろうことを信頼出来た事でした。

彼等が戦いに出かける前に彼等の母親達は神に対する大いなる信仰を教え彼等が疑わなければ神が彼等を守るであろうと約束しました。

ヒラマンは彼の若人の軍を戦場へ引率しました。彼はユダヤ市に進軍して弱く失望しているアンテプス指揮下の軍勢に加入しようと計画しました。彼等はアンテプス軍にとって強力な味方となりました。けれどもレーマン人等は、アンテプスがこの二千の軍勢によって強化されたのを見た時、その町を攻撃するのを止めました。多くの月日が立ちましたがレーマン人の攻撃はありませんでした。

そこで二千の若人達の父親等は息子達に食糧を持って来ました。この事は又ニーファイ人達を元気づけましたがこれを憂えたレーマン人達は兵を派してその供給を阻止しようとした。

ニーマン人の焦慮している様を見たアンテプスとヒラマンは彼等をその町から引き出して広々とした所で戦おうと決心しました。

アンテプスはヒラマンにその二千の若人を率いて恰も彼等が糧食を運んでいるように見せかけて近くの町に行進するように命じました。レーマン人の軍勢が要塞堅固な町から出て来て彼等に従うことが望まれました。

そうすればモロナイが曾てミフレク市に於て他のレーマン人達をわなに陥れたと同様アンテプス軍が後方より進んで来てレーマン人をわなに陥れる事が出来るでしょう。

ヒラマンとその部下達は出発してレーマン人の町を行進通過しました。レーマン人達が彼等に従って出て来るとヒラマンの部下達はレーマン人達を遠く市外に曳出そうとしてその前方をどんどん走って行きました。

レーマン人達は終日彼等を追跡しましたが追付くことが出来ませんでした。追跡は更に二日間続きました。けれどもレーマン人共は若人達に追付くことが出来ませんでした。

アンテプスはレーマン人がヒラマンを追いかけた最初の日にこれを見て部下を従えて後方からレーマン人を追跡しましたが、レーマ

ン人達は追跡されていることに気づきませんでした。

三日目にヒラマンはレーマン人達がもう追いかけるのを止めているのに気づきました。彼はアンテプスとその部下が彼等に追い付いて直ちに戦闘が始まったのだと思いました。

彼は二千人の若人を彼の許に呼んでアンテプス軍を救う為レーマン人と戦うべく戻るように頼みました。この若人達はその生命よりも自由を喜びました。戦うことを頼まれた時彼等はヒラマンに彼等の母によって彼等になされた約束を告げました。若し彼等が主なる神さまを疑わなければ主なる神さまは彼等を守るであろうと云うことが彼等の信仰でありました。

ヒラマンはそこで彼等を率いて戻りました。間もなく彼等はレーマン軍とアンテプスの軍勢が戦っているのを見ました。ニーファイ人達はレーマン人を急追した為、疲れてよく戦いましたけれど打敗られてしまいました。アンテプスは他のニーファイの指導者と同様に殺されてしまいました。ヒラマンの若人達が来た時、指揮者を失ったニーファイ人達はレーマン人に

降服しようとしている処でした。若人達は烈しくレーマン人を攻撃しました。ヒラマンは未だ曾てこのような攻撃を見た事がありませんでした。彼等が攻撃するや否や、レーマン人は直ちに疲れたアンテプス軍を一時置き去りにして全軍を以て彼等に向って来ました。

アンテプス軍は友軍が助けに来たのを見た時、勇気を取戻して再び戦い始めました。レーマン人達は今や双方よりニーファイ軍に攻められ間もなく降服しました。

戦争が終了した時ヒラマンはその若人達が戦死したかどうかその数を数えました。一人の戦死者もありませんでした。その後ヒラマンはモロナイに戦闘の模様を次のように書き送りました。

「レーマン人が降服した後私は若人達が多く戦死したのではないかと思つて救えて見ますと、御覧なさい、只の一人も失われて居りませんでした。そして彼等は奇跡的な力又偉大なる力を以てレーマン人に襲いかかりレーマン人達は驚き怖れて捕虜のように直ちに降服したのでした」。

(今) 日にお集りの皆様の中に福音を
(恥) としていない人々を見る時、私
は心からうれしく思う。

ひとりの方がこの教会のために合衆国の
南部伝道部で伝道してから、再び学業に従
事したいと望んで、コーネル大学に入つて
来た。ある日曜日、すべての学生は「トネ
ル」の学長アンドリュー・ホワイト氏と
個人的に握手を交わして自己紹介する事にな
つた。この青年の番になると、彼は「ユ
タ州出身のトマス・E・イエーツです」と
自己紹介した。するとアンドリュー・ホ
ワイト氏は「君はモルモンかね」と
尋ねた。

イエーツ兄弟はイエス・キリストの福音
を少しも恥と思つていなかったから、直ち
に「はいそうです」と答えた。

すると、アンドリュー・ホワイト氏は次
の日曜日また彼に逢つて話したいと云つた。
一週間たつて、彼はアンドリュー・ホ
ワイト氏の書斎に招かれた。そこで何故彼が
ホワイト氏に招かれたかの理由が明らかに
された。

アンドリュー・ホワイト氏は、自分がロ
シヤ政府に対する特使であつた時にロシヤ
の博愛主義者であり、著述家であるカント
・レオ・トルストイと親しく交つたと云
つた。ある日、彼がトルストイの家を訪問
した時、彼はトルストイが今畑に出て畑を
耕しているとの話を召使から聞かされ、そ

れによると、若し、トルストイに逢いたいの
なら、畑へ行くようにとの話であつた。そこ
で彼は畑へ行つた。

(ト) ルストイに逢うと二人は丁寧に挨拶を
し合つた。すると、トルストイは
「若し私とお話したいのなら、私が
耕し終えるまで私と一緒に居て下さい」と云
つた。

そこで彼は彼のそばに居て、いろいろな事
を話し合つた。宗教の問題になつた時、トル
ストイは、アンドリュー・ホワイトに「アメ

福音を恥とするな

ジョン・ロングデン

リカの宗教についてどんな考えをお持ちです
か」と尋ねた。

(ア) アンドリュー・ホワイトは答えた「アメ
リカには国教というものがございませ
ん。すべての人は自己の良心の指示に従い、
いかなる神をも礼拝する事を許されているの
です」と。

トルストイは云つた。「私はそれについて
はよく知つて居ります。カトリック教会はロ
ーマで始められ、ルーテル教会はドイツで、
また監督派の教会は英国で始められたのも知
つて居りますが、私は普通モルモン教会と呼
ばれるアメリカの宗教について何か知りたい

と思つて居るのです」と。

(ア) アンドリュー・ホワイトは云つた。「私
はモルモン教徒についてはお恥しいな
がらほんの少ししか存じて居りません。知つ
ている事は、モルモン教徒が大変迷信を信ず
る人たちで、また特殊な、変つた人たちで
あるという事だけです」

すると、トルストイはこのアンドリュー・
ホワイトに一つの非難の言葉をあびせようと
決心したのであつた。その非難の言葉の意義
をしつかり把握するため、私は今こゝで一つ

の文を読みあげたいと思う。

「すると、カント・レオ・トルストイは、
公正で、まじめで、且つ愛想の良い態度で
この特使であるホワイト氏を非難した。

「ホワイト博士、私はあなたのような学識
と地位のある御方がこのような大變論題
について余り御存知ないのを知つて大變驚
きましたし、また失望も致しました。モルモ
ン教徒はアメリカの宗教を教えて居ります。
彼らの原則は、天とその栄光に関する事は
かりでなく、彼らの社会的経済的の相互関
係が健全な基の上に築かれるために、どの
ようにしてこの世の生活をなすべきである

かを教えて居るのです。若し人々がこの
教会の教えに従うなら、何事も彼らの進
歩を妨げるものはないでしょう。それは
無限なのです。」

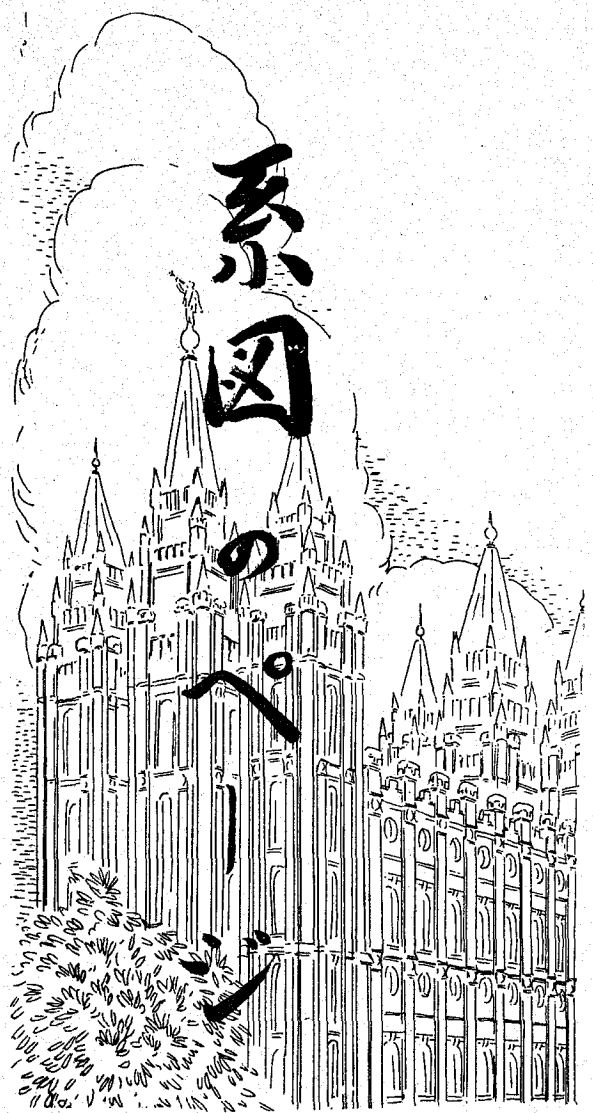
「過去に於てはあちこちで大きな宗教
上の運動が始められましたが、みな完全
に至らずして消滅してしまいました。若
しモルモンの教えが最後まで続き、三代
四代に達するなら、それは世界の人々が
未だかつて知らなかつた最大の力となる
にちがいありません」。

(私) はこのことを信じ、モルモンの教
えが過去百三十三年の間、変る事
なく、続いて来たという証詞と、それがイ
エスキリストの完全な福音であるとの証詞
を持つて居る。然り、正義を渴望する者は
幸福である。私は今日のすべての人がみな
正義を渴望している事を信じて居る。

この輝き「おとずれ」を世のすべての
人に宜く伝えるために、主の謙遜な僕とな
つて働く事はわれわれの大いなる責任であ
る。

神がこうした神の御業に従事する人たち
に祝福を垂れたもうよう、また私はこれら
以上の事がすべて真実である事をイエス・
キリストの御名によって申しあげる。

(一九五三年十月三日、ソルトレータ市
に於ける第百二十四回大会にてなされた演
説より)



系図のページ

北支部系図委員会

東京北支部系図委員会は一九五八年一月に発足を見て、大塚支部長をはじめとして、福田真兄弟、そして熱心な兄弟姉妹達の努力により、遅々たる歩みではあるが進展していることをよろこんでおります。私達はあまりにも大いなる祝福をいただいておりますために、いかにしてその感謝の気持ちをあらわすことができるか。み心に少しなりともかなうべくあらゆる努力を試みることです。系図の仕事

に必ず毎日わずかの時間をさくようにしたいものです。その時にはめぐみを与えていただけた先祖に對して感謝の気持ちを少しでもあらわすことができ、又み心になかなるの一方方法であるからです。渡部兄弟をはじめとして兄弟姉妹達の導きのもとに、地方部の系図集會に集い、知識と激励を受け、小さなながらも支部の系図委員会を毎月もつています。いくらかの記録を集めた兄弟姉妹のある時には、

系図委員がワークナイトをひらいています。又日曜学校に於ても系図の級が開かれて学び合つています。みむねにかなうべくつとめる時に、あふるる祝福が与えられることでしょう。天のお父様が実に生き給い、主イエス様が救世主であられ、末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一の眞の教会であること、神権が尊く、この福音が眞であり、ジョセフ・スミスをはじめ指導者達がいられし方々であります。そしてこれらのことが事実です。この証詞こそ私達の幸福と平安のもとであり、みむねにかなうべく、その一つとして系図の仕事に従

事する時、主よりあふるる祝福と共に証詞をつよめていたゞけ、ますますかたく善にむすびつき、正しき道へとあゆめますことを感謝いたします。私にとりまして、こ

の系図の仕事に、大きな導きと、支えを感じておりますことを喜んで証詞いたします。すべてを主のみ名により。

アーメン

系図協会长からの書簡

親愛なるステーク支部長及びステーク系図委員会会長殿

私たちの四つの神殿の完成と他の神殿に於ける仕事の加速化に伴い私共は聖徒たちの神殿活動の一段の躍進を知り、喜び感謝の意を表する次第であります。

然しながら私たちは教会の会員の中で多くの者が自己の系図の探求をしていないことを知つて居ります。

聖徒が自己の死せる先祖をたずねて、彼等の爲に代理の仕事がなされるようにすべきであることは主の誠命であります。これは教会の各会員に属している個人個人の責任であります。

その数が増えた神殿で、より多くの仕事が生じられるのでこれに必要な姓名を備へるべく、探求の必

要性が更に大きくなつたのであります。この事を心に留めて私たちは貴方に、この手紙を書き貴方が貴方のステーク支部の会員たちに彼等自身の家族の系図の探求を拡大するように、又この仕事を始めていない者には着手するように奨励されるよう提案します。

これに関し私たちは次のような提案を致します。

一、貴方の定期的な系図委員会を推奨される程の強さに維持、強化してワード部会員でその援けを必要とする者に対し、熟練せる援助を準備する。

二、メルケゼデク神権ハンドブックに、神殿活動は、神権定員会の活動計画の一部であると提案されてあるので、我々はステーク支部長がメルケゼデク神権定員会の会長として定

神殿献堂式の祈禱

ソルト・レーク神殿 (三)

ウィルフオード・ウツドラフ大管長

天父なる神よ、此の殿を建てる時に働いたすべての人、又それらの分に応じ資材と能力を以てこの殿の完成を援助した人たちが報いられずに終ることなきよう汝の慈悲の内に彼等を憶え給え。

時に、間違いに陥らざるよう彼等を祝福し給え、又更に彼等に新しき情報の道を開き、彼等の働らきが単に正確なるのみならず、又完全なるものなるよう、彼等の手に過去の記録を置き給わんことを請ひ奉る。

我々は我々の血族が最後から最初の者迄、現在からさかのぼつて始まりに至る迄、切斷されざる環を以て我々に連結され、聖なる神権を以てよう接され一つの大家族として汝の内に結合され、汝の能力によつて密着せられ、共に汝の面前に立ち、汝の御子の贖いの血の力によつて、すべての悪から解放され、救われ、潔められ、高められ、栄光を受けられるよう汝を讃美し奉る。又我々が死者の為になさねばならぬ仕事に就て我々に知らしむべく聖なる天使をして此の聖なる殿の内を訪れさせ給え、而して汝が未だ汝と誓約せざる多くの人の心を傾けて彼等の先祖を探索せしめ、そうすることより我等が多くの汝の聖徒たちの先祖にもさかのぼるよう又かく汝の御業の完成を援ける望みを彼等すべての者の懐の内に増さしめ給え、神よ、彼等が彼等の系図を準備する

すべての人の霊の父なる大いなる神、汝よ、汝が汝の権能の一部をその上に置きたる人々、汝の御子の位に附随する神権の責任と能力を持つ人々を豊かに祝福し完全に資格あるものとなし給わんことを、始めの者から終りの者迄、全世界に汝を代表する汝の僕より執事の職に聖任された最後の者迄彼等すべてを祝福し給わんことを。

以上の場合に対する貴方の御協力には私たちがすべてによつて感謝されるであります。そして貴方の会スデーキ部に對し好結果をもたらすでありましょう。私たちはウィルフオード・ウツドラフ大管長が次のように言つたのを憶えて居ります。

私は末日聖徒が只今から彼等の出来る限りその系図をさかのぼつてその父や母たちに結び固められることを望みます。子供たちをその両親に結び固め、この連鎖を貴方がその姓名を得られるだけ遠く迄及ぼす、これが主のその民に対する御意志であります。

三、扶助協会スデーキ部管理委員会はワード部内の姉妹たちが、このような家庭活動に彼女等の夫たちに協力するように奨励すべきである。非常に熟練した探求家の中に多くの姉妹が居る。

四、教会の若い人達は現在日曜学校、YW M I A、及び初等協会の正規の教課を通じて提供されている系図教育に参加するようその両親たちによつて奨励されるべきである。

現在ソルト・レーク市中央系図図書館で得られる記録を利用しようとする者はウィークデイの昼夜に亘つてそれを入力することが出来る。けれども大部分の聖徒たちは探求の仕事のよい着手の為、彼等自身の家族の範囲を越えない方がよい。直系親族間に紹介することが屢々よい収穫をもたらす。

我々は我々の血族が最後から最初の者迄、現在からさかのぼつて始まりに至る迄、切斷されざる環を以て我々に連結され、聖なる神権を以てよう接され一つの大家族として汝の内に結合され、汝の能力によつて密着せられ、共に汝の面前に立ち、汝の御子の贖いの血の力によつて、すべての悪から解放され、救われ、潔められ、高められ、栄光を受けられるよう汝を讃美し奉る。又我々が死者の為になさねばならぬ仕事に就て我々に知らしむべく聖なる天使をして此の聖なる殿の内を訪れさせ給え、而して汝が未だ汝と誓約せざる多くの人の心を傾けて彼等の先祖を探索せしめ、そうすることより我等が多くの汝の聖徒たちの先祖にもさかのぼるよう又かく汝の御業の完成を援ける望みを彼等すべての者の懐の内に増さしめ給え、神よ、彼等が彼等の系図を準備する

すべての人の霊の父なる大いなる神、汝よ、汝が汝の権能の一部をその上に置きたる人々、汝の御子の位に附随する神権の責任と能力を持つ人々を豊かに祝福し完全に資格あるものとなし給わんことを、始めの者から終りの者迄、全世界に汝を代表する汝の僕より執事の職に聖任された最後の者迄彼等すべてを祝福し給わんことを。

能力によつて結合されるよう、又彼等が汝の名に栄光をもたらし彼等を汝に王及び祭司たちとなせる英智を擁護し給わんことを祈り奉る。

我々は先づ教会の大管長会の為に祈り奉る。汝の民の福祉の為に本質的なすべての事に於て汝の心と意志を明確に彼等に示し給え、

彼等が汝の教会の役員及び会員たちを管理する時、それが汝に受け入れらるるものであるよう、彼等を有能ならしむべき天の智慧と豊かな信仰と、必要な能力と賜を彼等に授け給わんことを乞ひ奉る。汝が此の世に生き永らえ又此の生涯の後も持続する先見者、又すべての人類の為に啓示を受け授くる者たるべく召したる人を憶え、汝が彼に与えた職の権能と賜を完全な形に於て彼に許与するよう、又教会の大管長会の中の彼の協力者をも同様に見出し給わんことを祈り奉る。

汝の僕、十二使徒たちの上に汝のみたまを豊かに賜らんことを、彼等の導きの下に、王国の福音が全世界に遍く行きわたり、もろもろの国、族、言語、民に宣伝えられるよう、そしてすべての地の忠道を開き給え。

実なる者が喜びと救いのよきおとづれを耳にすることが出来るようになさしめ給え、汝よ、地上の政府の間に在つて汝の真理を広める途上に介在する障礙を除去し、すべての人に良心の自由が許与されるよう統治し給わんことを祈り奉る。

慈愛の内に汝の僕、祝福師たちを憶え彼等が汝の民イスラエル人を完全に祝福出来るよう彼等の内に慰安と激励と祝福の種子を宿らしめ、聖なる約束のみたまを以て彼等を充たし、汝の名が汝の教会の民によつて称讃され、汝の僕たちの祝福した約束の中に、汝の民の信仰が強められるよう、僕たちの予言の言葉を成就せしめるいづくしもある喜びを与え給え。

汝の僕、十二使徒と共に、その協力者、七十人を彼等が世界の隅々に汝の言葉を宣べ伝える時に、強力であるよう祝福し給え、すべての島々、大陸が汝が此の末日に此の地上に於て遂行しつゝある大いなる仕事の証詞に喜ぶよう彼等があらゆる国に福音をもたらしすべての言語を以てその救いの真理を宣言出来るよう彼等の前に広き道を開き給え。

おゝ主よ、汝がいろいろの職と地位に召したる大祭司たちを豊かに祝福し給え、栄え行くシオンのステーク部に於いて汝の言葉を宣べ伝える中心として立つ彼等に高められた彼等の召しのみたまを豊かに授け給え。会長、副会長、監督、高等評議員会員として又その所持する神権の故に正当に就く其他のすべての職に在る人たちが汝の聖なる律法を正しく執行する者であるよう民を愛する父として又聖徒たちの間に於ける裁判官として慈愛を以て正しく公平な判断をなすことが出来るようなさしめ給え。

同様に汝の僕たち長老、祭司、教師及び執事たちそれぞれに召しに智慧、信仰及び知識の貴重な賜を授け、汝が汝の神権を帯ぶる者として召したすべての者が栄えある働らきの内に勤勉に彼等の持場を遂行出来るようなさしめ給え。汝が顯示せる人類の贖いたる救いの真理を今日、深い霊的な暗黒に覆われている数百万千万の人々に向つて宣言している汝の僕、宣教師たちを忘れ給ふことなきよう汝等汝に乞ひ奉る。すべての悪から彼等を守り、暴徒の輩行から彼

等を救ひ彼等がよい事に不自由することなく彼等の働らきを大いなる賜と能力を以て祝福し給え。又彼等の家族をも憶え給ひ、彼等が汝によつて支持され、慰められるよう且汝の聖徒たちによつて世話され、見守られるよう、思いをよせ給わんことを祈り奉る。

我等の父よ、汝の聖徒たちのすべての家庭の内に平和が宿るよう、聖なる天使が彼等を守護するよう、彼等が汝の愛の手によつて取巻かれるよう、彼等の上に繁栄がもたらされその輝きを増し加えるよう、誘惑者と破壊者が彼等から遠く、取除かれるようなし給わんことを祈り奉る。汝の誓約の民の日の義の内に長く続くよう又疾病及び悪疫が彼等の内より駆逐されるよう、彼等の居住する地が、汝の恵みにより肥沃なる地であるよう、汝の民の慰安と必需に応ずべく其処の水が増し氣候が調節されるよう、

かんばつ、荒廃、暴風、旋風及びたい風が遙かに遠ざかるよう、汝が我々に与え給ひし地が決して地震に害われることなきようなさしめ給え、いなご、毛虫及びその他の昆虫類が我々の庭を破壊し、我々の畑を荒すことなきよう、我々

が肉体的にも霊的にも汝に祝福された者であるよう又我々の家庭にも、住居にも家畜にも、我々自身及び我々の子孫にも、又汝が我々をしてつかさどらせ給うすべての上に祝福あらんことを乞ひ奉る。

(未完)

ジャクソン兄弟来訪

ロスアンゼルス神殿管理会会長第二副会長ハロルド・ジャクソン兄弟夫妻は四月十九日の日曜日に中央支部を訪問し聖餐式に於て、日本人が此の福音を受け入れつゝあるのを先祖と共に心から喜ぶと述べ、予言者ジョセフ・スミスが最大なる責任と言われた先祖の探求を今日、今から始め、神が皆様にその道を備え給わんことを祈り又将来皆様がロスアンゼルス神殿に来ることが出るよう望みますと心からなる愛の言葉を以て一同に深い感銘を与えた。

尚ロスアンゼルス神殿には儀式を執行する会員が三百名働いて居り、一セクシオン(会期)に三百名の収容力を持つてゐるとの事である。

した。星正助兄弟と田宮紀子姉妹です。

新潟支部では建築資金獲得の為に映画の前売券を売っております。今回はどれ位の利益があるかわかりませんが、割合に利益は多いようです。又五月二十五日には大阪の秋本姉妹の協力によつてピアノ

リサイタルをひらく予定です。幸な事に地元の新聞社や労音が後援してくださる事になりましたのでとても心強く、このように、恵んで下さった神に心から感謝しております。

(酒井 信)

教会堂建設の種蒔



三月二十一
日春の休日を利用して遠からず教会堂が建とうとして
いる土地へ再び馬鈴しよの植付けを行いました。早朝より教人の会員が集り植原兄弟の指図でなれない農具を持つ人々の表情は真けんそのものでした。昨年に比べて少数なので気になりま

したがMIAに通う一人の求道者が優れた経験者であつたので皆、力づけられ仕事も思いのほか、かどつて行きました。老いた佐藤兄弟が腰をおろし種いも切りをする姿もほふえましいものでした。

午後になり働き手もふえ、日曜学校に集う子供も教人増して一生懸命に種いも運びを手伝いました。遠く栃木より専門家である教本兄弟も加わりいよいよ仕事も進み、約四百坪の土地へ昨年の倍(二俵)植える事が出来ました。夕日が沈む頃には、この土地より収穫された人じんに馬鈴しよで御ちそうをつくりました。一日の疲れも忘れ皆んなで楽しい夕食をいたさながらモルモン経の「主の命じらう」ことには、人がそれを為しとげるために前以つてある方法が備えてありそれなくては、主は何の命令も人に下したまわれない」と言う聖句に一層証詞を持てた事を心から感謝しておりました。

(芥藤 陽子)

歌うシヤムウェイ家族

三月十日付のチャーチ・ニュースにラリー・シヤムウェイ兄弟を含むBYU在学中の四人の兄妹の事が紹介された。B・Y・Uに兄妹四人がそろつて在学中という事がすでに珍しいのにこの四人はそろつて音楽的な才能に恵まれている。

名らしい。

カーメン姉妹は初等教育の専攻であるが、BYUのオペラのメンバーとして出演もしている。

リーキー兄弟はなかなかの学者でもあり、又運動家でもあるとの事。BYUのバスケット部に入っているらしい。

他に今年は弟のデルがBYUに新入生としてこのグループに加わり、歌うシヤムウェイ家族はますますBYUの名物になりそうである。

マレーン姉妹とラリー兄弟は共に音楽を専攻している。マレーン姉妹は一九五八年度BYUのビヤニストに指名され、オペラにも出演した。今年六月に卒業する。

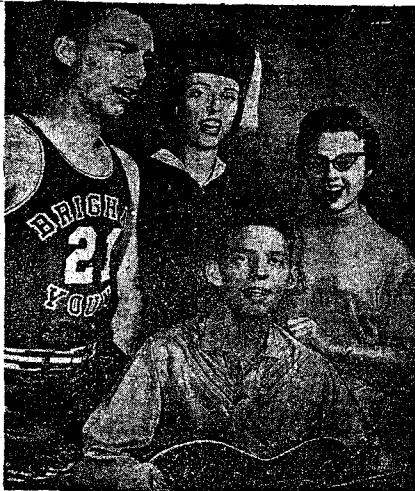
ラリー兄弟は日本に三年間伝道補助組織の監督

を最後に帰国した人気ある宣教師であつた事は御承知の通りであるが、BYUのカベラ・クワイヤーの宣伝

広告主任であり、

数種の楽器をき

ようにこなす事はBYUでも有



左よりリーキー、マレーン、ラリー、カーメン

東中央地方部

大会に出席して

大塚 昌治

すら出
来ない。

四畳半

のアパ

ート住

一八三〇年の六月一日、ニューヨーク州のフェット町で最初の大会が開かれた。この大会で多くの人は聖霊に感じて、著しく信仰を強め、教会の働きのために奮起したのであつた。

い

私

大会の中心話題はいつも管理者が提供する。四日、五日の中央地方部 大会も又ボール・C・ア

の論法の會員を笑つた事があつた。なんと信仰のない人であろうか。

か。現在建築資金を作る事に努力しないというのではないという点に幾らか救いを見出したとしても五十歩百歩でははたか、私は

「物がこのほど持たなくとも、日々の用を欠かさないほど物を持ちながら、自分のこりをもたないから」(モーサヤ四章二十四節) と云う言訳は神の前にはみとめられないのだ。

用語であつたとしたら叫びかねぬ程感激していた會員も少なからずあつた。涙ながらに証詞を立てていた會員があつたがまつたく神の愛情には涙ながらに感謝せずにはいられないのである。

私はある時一萬円の収入しない人が自分の一を払つてしようと生活出来ない。なぜなら自分の生活費は一萬円だからであるという式の論法の會員を笑つた事があつた。

の欲望にはきりがなく、さらに上があると考えるから自分達が貧しく思え、もし下をみれば自分はいつのか持てる者になつてしまつていふと気がつき、びつくりするのではないかと私は思うのである。とは云つても、本当の問題は、富んでいるから、貧しいから神に捧物をするのに差別があると考えている事だと思ふ。今さらながらモーサヤ書四章のベンジャミン王の言葉が身にしみて感じられる。

伝道部長はすべての會員達は今後収入の十五パーセントを神の御前に捧げなさいと命じられた。なにか新しい誠命を与えられたような気がするが、自分の一以外に断食、支部予算、地方部大会旅費基金、建築資金と今までも良い會員達は喜んで捧げ物を主に捧げていたのでそのまゝ続けられればよいわけであるが、十五パーセントと強調された所に部長の正しさがあるように私は感じた。會員の多くは自分の一は正しく守つていふが、他はあまり重要視せず、自分の一ツリ銭をあてるといつた會員が少なからずあつたという事は正さねばなるまい。しかし私の支部には、毎月自分の一とその他の基金の為に収入の約二十パーセントの献金をおしまぬ信仰強い會員があるが、この事は今後私達が部長の命に服す時に参考にならうかと思ふ。私達の持ち物はすべて神の物と確信している者にとつては十五パーセントはさして費用に

八三〇年の時のように天の示現はなかつたが、聖霊に満たされ、神と御子イエス・キリストを心から讚美した点については、大した差異はなかつたと思ふ。ホザナと云う言葉も私達は通常使用していないので、誰れ一人、ホザナ！ホザナ！と叫びはしなかつたが、日

心の中で大きな音を立てて落ちていつた誤謬——日本人は貧乏である。従つてアメリカ人のように金と時間がない、アメリカ人は三人に一人の割で自家用車をもつてゐる。私達にはそれが無い。それどころか、三十、四十になつても家一軒持つ事

か。現在建築資金を作る事に努力しないというのではないという点に幾らか救いを見出したとしても五十歩百歩でははたか、私は

「物がこのほど持たなくとも、日々の用を欠かさないほど物を持ちながら、自分のこりをもたないから」(モーサヤ四章二十四節) と云う言訳は神の前にはみとめられないのだ。

は感じられまい。

やもめのレプタの話、それは貧しいと感じている日本人には心染しいものであらう。今大会で自分は富める者になつていたと自覚した者にとつては富める若者の話しは心に痛いものがある。

私達は今年は努力して部長の命に忠実に服そう。

「まことに汝に告ぐ、この貧しきやもめはさい銭箱に投げ入るる凡ての人よりも多く投げ入れたり、凡ての者は、その豊かなる内よりなげ入れ、このやもめは其の乏しき中より、凡ての所有、則ち己が生命の料をことごとく投げ入れたればなり」(マルコ伝十二章四三節、四四節)

.....

一般大会は私が今まで出席したどの大会よりも充実した説教をきく事が出来たと喜んでゐる。帰還宣教師の佐々木八重子姉妹の話は彼女の人格を思わせる立派なものであつた。彼女の伝道がいかに成功したかは彼女の話しと証詞から十二分に知る事が出来た。渡部正雄兄弟も熱の入つたものであり、系図の強調はいつもながらの事であるが、頭の下る思いであつた。

佐藤竜猪兄弟の話は反モルモンのパンフレットについて明確な解答を私達に与え、教義内容の充分とのつた価値ある説教であり、満ちるの感謝をささげたい。

.....

神権会是最近聖任された四人の若い長老職の兄弟の話で期待にそむかぬ有意義なものであつた。今大会で長老職の会員が二十七人も集り他のどの職よりも多かつたという事はこの地方部の成長をはつきりと示していた。

.....

証詞会は各支部長の推薦された兄弟姉妹の証詞であつたが、三分といふ短い時間内に自己の所信は述べられようはずがなく、むしろ「異言をもて一萬言語よりも、むしろ人を教へんために我が心もて五言を語らんことを欲するなり」とコリント前書十四章十九節に教へてゐる通りに、今回も謙遜に「イエスはキリストなり」と証詞を立てた人達に感激させられた。

今までにないよい証詞会にもかかわらず、信仰雑誌、告白といった類のみに終る会員達がまだあつた。たまたまのはどうしたわけだろう。証詞の証詞を各支部長達は支

部に於て立てるべきではなからうかと私には思へた。最後に中東幹夫兄弟、山岸清子姉妹、佐藤汎兄弟に特別に証詞の機会を与えた事は地方部長と司会者の考えらしいが上出来であつた。中東兄弟が今大会のゴールド・アンド・グリーンボールの為に粉骨砕身働いた事は感謝しつくせぬものがある。伝道部長が指摘したように「日本人の手であれだけのものが出来、しかも戦後のゴールド・アンド・グリーン・ボールとしては最高であつた」という事は今大会の功労者と云つても言いすぎではないと思ふ。山岸姉妹と佐藤兄弟もD S合唱団の指揮者として一般大会の音楽プログラムを提供したものとて深く感謝されてよいと思ふ。

.....

ファイヤー・サイドが実に楽しいプログラムで大会の最後らしく、遠方の兄弟姉妹も軽い足どりで家に帰られたのではなからうか。米軍の会員達の中に軍服すがたが一人もなかつたので親しめたと言ふよりも、やはり同じイスラエルの血の兄弟姉妹には米人とか日本人とかいう区別がないという事をこのファイヤー・サイドで知る事が

出来た。

.....

大会が終るとすぐ次の大会が待たれるのは誰れしもの事であらうが、今度はその事はこの大会が良かっただけに一しおそれを感じて、遠方より旅費をかけて上京する者にとつては内容の貧弱な事は一番たえられない。実際次の大会に来る意欲を失わせてしまうのである。今度出席した会員達はおそらくそんな氣を起した人はなかつただろうと思ふ。ドイツ伝道部で

東ドイツの会員達は貧困の爲家具を売つてまでも西ドイツに於ける大会に出席すると言ふが、そんなにまで大会は重要なのであると云う事が自然のうちに強調されていたと私は今大会で感じた。或る会員は証詞会の閉会の讃美歌第一百番を歌いながら、今大会にはテーマがなかつた。しかしやはりテーマは出来たように思へると言つていた。それは第四節の一句の「犠牲に天の恵あり」である。(東京北支部長)

母の日

五月十日は母の日である。ファイデルファイアのアンナ・ジャークヴィスという少女が自分の母や他のすべての母に感謝したいと望み「母の日」という考案を作つた。この一少女の亡き母をしたう心持は全米の人々の心を動かし、五月の第二日曜日を国家的な祭日の「母の日」としてアメリカの国会を通過したのである。

現在この日、世界中の子供達は母への感謝をあらわす美しいカーネーションを胸に飾る。日本は大正年間から年中行事の一つとして「母の日」が行われて来ている。祝日に制定されてはいないが他の祝日にも増して意義ある行事になつてゐる。

伝道本部だより (三月三十一日現在)

宣教師到着

フランセス・I・キングズベリー姉妹

(ユタ州・ソルト・レーク市より)

ワイルス・クレガン長老

(ユタ州・ソルト・レーク市より)

フランシス・フオサイト長老

(ハワイ州・ホノルルより)

支部長任命

トーマス・アンダーセン長老は三月十六日付
福岡支部長に任命さる。

宣教師の任地異動

フランセス・I・キングズベリー姉妹

キヤロル・ブラウン姉妹

マーガレット・ヤマシタ姉妹

ゼーン・ヤマガタ長老

エドワード・ウエルス長老

ドナルド・ゴズリンド長老

ダビッド・ガンダーソン長老

ラモント・ヘリス長老

ワレス・クレガン長老

トーマス・ヘーグ長老

ジョン・アダムス長老

コルデン・日・モリス長老

ケネス・オートン 長老

フランシス・フオサイト長老

ユージーン・テイル長老

ジェームス・ブラッドシャー長老

ルロン・ポーター 長老 (京城中央)
フアーレル・パーキンス長老 (京城中央)
ジャック・ジェンキンス長老 (京城中央)

宣教師解任

新後閑義雄長老は任期完了して三月十九日
宣教師を解任された。

ラドン・バンノイ長老は三年間の任期満了
して三月三十一日を以て宣教師を解任された。
ちなみにバンノイ兄弟は四月から東京芸術大
学に入学した由。

神権授与

祭司	太田 豊二	福岡
教師	神保 勇	金沢
祭司	龜井 秀明	金沢
教師	菊地 良彦	室蘭
教師	近藤 治男	名古屋
祭司	柳田 征史	名古屋
執事	近藤 泰典	岡山
執事	きの 高広	札幌
執事	松下 泰男	札幌
執事	平野 たかひろ	札幌
執事	小松 文男	札幌
執事	小松 幸一	札幌
執事	丸山 周兵	東京中
執事	荒井 健蔵	東京中
執事	山島 健嗣	東京中
執事	大森 吉之助	東京北
祭司	戸沢 幸男	東京南
祭司	勝又 二郎	東京西

結婚

執事 勝俣 明 横濱
執事 岩井 邦次 横濱
執事 長瀬 正 那覇
教師 新垣 朝儀 那覇
教師 当麻 きくお 那覇
この外、韓国の会員で執事三、教師一、祭
司二が按手聖任されました。

☆佐藤汎兄弟(東京南支部)と竹下滋子姉妹
(横浜支部)とは三月八日横浜支部において
アンドラス伝道部長の祝福によりめでたく結
婚式を挙げた。

☆柴田信男兄弟と佐々木律子姉妹とは三月九
日小樽支部においてダイレル・ヘール長老の
祝福によりめでたく結婚式を挙げた。

☆工藤栄一兄弟と永井千代子姉妹とは三月十
二日群馬支部においてグレイ・V・スミス長
老の祝福によつてめでたく結婚式を挙げた。

バプテスマ

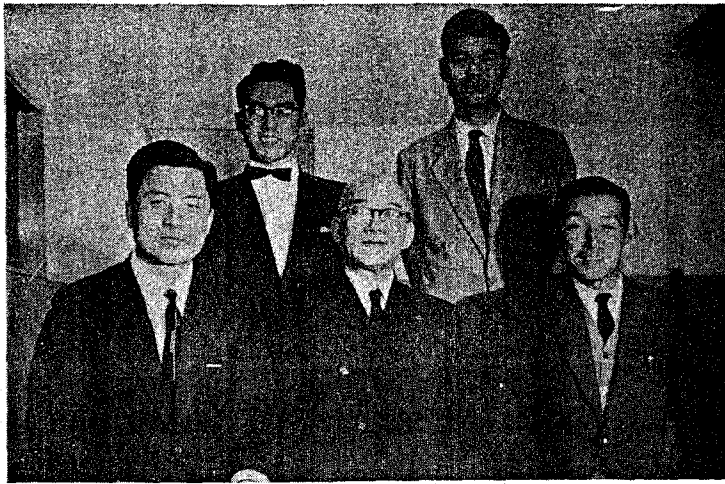
深山 孝俊	(群馬)
和田 教子	(広島)
柴田 哲志	(広島)
北迫 あけみ	(広島)
波多野 暁	(広島)
東野 光枝	(広島)
熊野 珠江	(広島)
柴田 智子	(松本)

児玉 栄治	(松本)
中村 たけし	(名古屋)
刑部 博信	(名古屋)
田宮 典子	(新潟)
星 正弘	(新潟)
浅田 茂一	(岡山)
津島 栄子	(岡山)
小畑 彰造	(岡山)
井上 紀美子	(岡山)
溝上 長男	(三宮)
井指 俊雄	(三宮)
成田 英子	(札幌)
高木 啓一	(札幌)
佐々木 朝子	(札幌)
今田 朝子	(札幌)
佐藤 貢子	(札幌)
石川 静子	(東京中央)
松浦 孝康	(東京中央)
岩見 泰枝	(東京北)
村松 和子	(東京北)
吉田 正雄	(東京北)
丹下 忠俊	(東京西)
山本 房治	(東京西)
長谷川 光男	(東京西)
松永 義明	(東京西)
山下 こう一郎	(東京西)
半田 寿美恵	(横浜)
室井 和美	(横浜)
西井 澄子	(横浜)
稲みね 澄子	(晋天間)

なお韓国にて新たに三十一人の会員が生れ
ました。

猪突猛进！ 東京北支部

東京の城北、城東地区と千葉、埼玉の二県にまたがる広大な地域を東京北支部と呼んでいる。



北支部長会と高木兄弟
(左より大塚 高木、田中各兄弟、後列左より福田、山田の各兄弟)

戦後いち早く高木富五郎兄弟によつて、この地域にも真の福音は伝えられ、一九四九年に、池袋支部、第一支部、北支部と、北支部と名称は変わり、集会場は転々と動いて今日に至つて、創設以来支部の為に尽力している。

来ているのは地方部評議員の高木兄弟のみである。元池袋支部長、元第一支部長として彼のよい影響が支部におよぼしているものは意外に大きい。

第一支部の時は池袋と荻窪支部とが合併して強力な支部が作られたが今日の北支部も又昨年一月東支部と合併して、確立した支部としての発足をみたのである。

この東支部の合併はモルモン経で、云えばさしずめゼニフの民とニフアイ人との合流みたいなもので一度別れて又一緒になつたものであるが、ゼニフの民の中からアルマとかのモルモン泉でバプテスマを受けた信仰強い民をセラヘムラのニフアイ人の中に送込んで教会の恢復をなしたようなものであつた。事実日曜学校の会長、MIAの会長、扶助協会の会長と重要なポストの大半がこの東支部の

会員達の中から選ばれて来ているのである。

東京北支部が支部らしくまとまりを見せて来たのはこの二、三ヶ月の事である。肉親の兄弟、父と子、夫婦、そして家族ぐるみのモルモンの家庭が急速にこの支部にも誕生して来たのがその大きな原因のようである。毎週月曜になると「家族の夕べ」を催す。家庭が多くあるという事はこの支部が本場に発展して来たという一つのしるしになるのではないだろうか。ある月曜の夜日曜学校の管理会の一員の家庭に行つてみよう。七時になるとさやかな集りが開かれる。神権者である主人公が司会をする。讃美歌を歌つてお祈りは教会で祝福を受けた五才の子が大人顔まけのすばらしい祈りをする。聖句は司会者、お話しは奥さんと九才になる長女の両姉妹、当夜は長老職にあるお客さんがあつたのでお客さんの話を最後に閉会し、後は雑談、話しは自然に信仰を強めた体験談になる。

支部長会は東京一横浜を通じて欠員なしの完全な唯一のものである。しかしこの支部長会は一度

に組織されたものではない。一昨年の十二月に先づ支部長と第一副支部長と書記の支部長会が組織された時は遂に東京一横浜で欠員のある唯一の支部であつた。その後第一副支部長の入替があり、九月になり、第二副支部長の任命があつて強力な支部長会が出来上つたのである。長老職の四人によるこの支部長会の結束により支部の運営は円滑に行われるようになったのである。

支部長

は帰還宣教師の大塚昌治兄弟、第一副支部長は田中英男兄弟、第二副支部長は帰還宣教師の福田真兄弟、書記は山田五郎兄弟で二人も帰還宣教師を含んでいるのは大きな強みである。田中兄弟は北支部のベテラン田中栄子姉妹のお父さんで老令(といふもまだ五八才)にむちうつて支部の為に働いている。新年の彼の決心は今年は猪突猛进、教会発展の為に働くという事であつたが、それがいつのまにか、支部の合言葉になり、そのまま言葉通りに動き出しているのが東京北支部である。

支部の組織をみると著明な事実が一つある。それは支部長会もそ



地方部大会に於ける北支部会員 - 1959年4月5日 -

うであるが補助組織のM・I・A以外の組織の会長と第二副会長は二十代三十代の働きざかりが選ばれて居り、第一副会長はいずれもが四十、五十あるいは六十に手のとどく兄弟姉妹が選ばれていると

いう事である。これはまことにめずらしい事であるがなんと強力な布陣であろうか。猪突猛進！東京北支部は決してむこう見ずな、がむしやらの突進ではない事はこの人事をみてもうなすけよう。

北支部の変った所では特別の委員会が案外な働きをしている。建築委員会が今年の目標五十萬は絶対達成せんと計画に余念なく、P・Rコミッティというしやれた委員会では毎日曜日の日曜学校、聖餐式のプログラムの印刷その他の宣伝活動にこれ又余念なく働いている。このP・Rコミッティの為に日曜学校も支部長会もプログラムは一週間前には完全に計画し、説教者は実に二月も三月も先の事まで決め、しかもPRしているのである。備品管理の委員会、又今は支部長会が兼任であるが、聖徒の道の委員会といった類の活動はさらに必要に応じて増加して行く予定になっている。

現在会員数一四七名、長老職にある者が実に十一名いる。祭司八名、教師八名、執事九名と神権者が割合多い事は将来の発展を約束するものといえよう。

集会場

に恵まれぬという
難点は十年間変らぬ事であつたが、この程移転したムサシノ・ドレスメーカーの四階ホールはその点今まで最上で、この上MIAもそこで引続き借用出来ればまずまず北支部は安泰なの

であるが、それもかなわぬらしく、MIA、日曜学校、扶助協会いずれも異つた場所で開催を聞いて来た事は又とうぶん続くようである。要は教会堂があればと云う事であるが、既に土地は昨年、八百三十坪を二千萬近くの大金を投じて購入しているので、北支部の会員

がいかに多くの会員を教会に導き、又いかに建築資金を多く獲得するかが教会堂を与えられる大きな理由になつて来よう。

猪突猛進！北支部は今年は大いにがんばる事であらう。



教会堂敷地

お母さんありがとう



(上) お祖母さんもお母さんです。母の日には忘れずに感謝致しましょう。

(孫息子と孫娘から花を送られる成田梅子姉妹)



(左) 後列左は新井千鶴子姉妹

米国から7年ぶりのお里帰り。夫君は帰還宣教師の新井清兄弟。後列右は新井姉妹のお母さんの成田姉妹。前列左は長女のジョイ、右は長男アーレン。日本に来て英語が通じないのですっかりホームシックにかかっている由。

右) 中央支部の子供の日曜学校の生徒達が先生からお家に帰り、「お母さんありがとう」と云って上げるのですよと教えられいただいた花を手にもっている所。





「詩」

永遠に

室蘭 高橋 正徳

祈れ！ 神に対して
戦え！ サタンに対して
断固として、永遠に。

善を行え！ 人に対して
愛を惜むな！ すべての人に
いかなる場合も、永遠に。

日の栄！ 我等の目的。
歩め！ 主の御もとに
主は待ち給う、永遠に。

日曜学校

日曜学校の終つた後。
私に向つて云う子供達
「先生今度お祈りさせて下さい」
「先生今度お話をさせて下さい」

「俳句」

西支部 俳句

小さい手をさし上げて
先を競つて云う
小さくてあどけないが真剣なひとみ
子供日曜学校の教師として
そんな日の私には夢がある
その子達によせて・・・

はち切れん両のボツケのひなあられ	勝又兄弟
ひろつては食べ又こぼすひなあられ	勝又兄弟
雛の顔じつと見つめて心おだやか	小室姉妹
子等とつぎ桃の祝いの老夫婦	小室姉妹
野遊びに又の約束出来上り	小室姉妹
働きをおえたるはゝに春の風	小室姉妹
療養のベツトに垂れて紙びいな	小室姉妹

支 部 所 在 地

阿部野	旭川	福岡	群馬	広島	金沢	甲府	松本	室蘭	名古屋	新潟	西宮	岡町	岡山	小樽	三ノ宮	札幌	仙台	東京中央	東京北	東京南	東京西	山形	山口	横浜	普天間	邦
大	旭	福岡	高	広島	金	甲	松	室	名	新	兵	大	岡	小	神	札	仙	東	東	東	東	山	山	横	沖	沖
阪	川	岡	崎	島	沢	府	本	蘭	古	潟	庫	阪	山	樽	戸	幌	台	京	京	京	京	形	口	浜	繩	繩
市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
東	八	薬	並	古	成	富	沢	幸	昭	中	西	豊	富	富	灘	北	光	渋谷	豊島	大田	武蔵	諏訪	柳井	野港	宜野	邦
住	条	院	榎	田	瀬	士	村	町	和	大	ノ	中	一	岡	区	二	禅	区	区	区	野	市	市	村	野	松
吉	五	大	二	古	町	見	一	八	区	烟	宮	市	市	一	篠	条	寺	八	千	南	市	三	今	篠	野	尾
区	丁	通	七	江	二	町	六	九	北	五	田	代	北	一	本	西	通	幡	名	千	吉	九	市	原	嵩	区
田	目	二	五	四	ノ	一	四		山	七	一	一	一	三	町	二	二	一	東	祥	寺	七	三	二	区	一
辺		ノ	五	〇	野		四		町	金	一	一	一	五	四	丁	八	ノ	二	四	三	九	九	二	三	ノ
東	町			ノ	田				三	井				三	ノ	目	三	〇	四	九	六	一	九	八	八	九
町	七			三	方				一	方				五	三			八	八	八						

編 集 言

V: 神の宮居に奉仕するのは利害を超越すること勿論である。貴重な神権の権能によつてどんな役職でも感謝を以て自分を忘れてつとめましょう。

V: 「伝道部長メッセージ」にはその真義を評述している。よく読んで、教会のために徹底的協力をいたしましょう。

V: 「聖徒の道」が発展段階を上り出した。会員たちは各支部一団となつて購読者獲得に全力を注いで下さい。あなたの責任において、支部の責任において:

V: 教会堂の建築は焦眉の急となつた。自分の教会堂を建てるために貴方の収入の三パーセントを建築資金に提供しようではありませんか。

月刊「聖徒の道」第三巻第五号

一九五九年五月一日発行

(定価) 一ヶ年三百円 一部三十円

編集人 ポール・C・アンドラス

発行人 東京都港区麻布広尾町十四

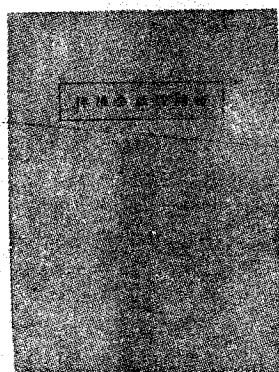
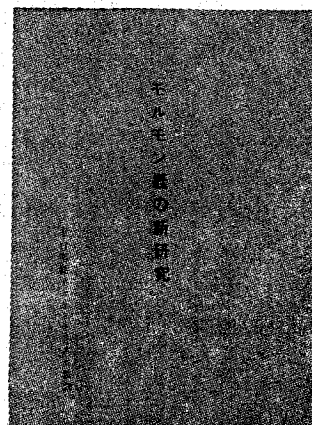
末日聖徒イエス・キリスト教会

北部 極東 伝道部

神権會用テキスト

最近の考古学上の発見は、モルモン経が真正
 確実な聖典であることを強く裏書きしている。
 著者は考古学上の事実に基いてモルモン経の新しい
 研究を行い、モルモン経の中にある諸々の記録が真
 正の歴史的事実であることを証明している。極めて
 興味深い専門の研究書である。

150 円



末の日に回復されたイエス・キリストの福音
 を系統的に説き明した書、神権会の年少者用テ
 キストではあるが年長者や婦女子にも内容は極
 めて興味のあるもの。

100 円

系図テキスト

予言者ジョセフ・スミスは我々は系図を探求し神殿
 を建て、先祖の為に儀式を執行することによりシオン
 山の救い手となると言われた。

本書は系図協会総書記ベネット長老が我々がシオン
 山の救い手となる道を具体的に詳述せるもので全会員
 必読の書である。

100 円

